

令和4年度
事業報告書

学校法人 平成医療学園

目 次

I. 法人の概要	1
1. 名称・所在地	1
2. 建学の理念	1
3. 沿革	1
4. 設置する学校	2
5. 学生数	4
(1) 入学定員・入学者数・入学定員充足率	4
(2) 収容定員・在学者数・収容定員充足率	6
(3) 入学者数の推移	9
(4) 専任教員1人当たりの学生数	14
6. 理事・監事・評議員	16
7. 組織	18
8. 教職員数	19
(1) 教職員数	19
(2) 年齢別専任教員数	19
(3) 職階別専任教員数	23
(4) 専任教員・非常勤教員比率	24
II. 事業の概要	28
1. 基本的な方針	28
2. 事業の実施状況	28
(1) 宝塚医療大学	28
(2) 平成医療学園専門学校	33
(3) 横浜医療専門学校	36
(4) なにわ歯科衛生専門学校	39
(5) 名古屋平成看護医療専門学校	41
(6) 日本総合医療専門学校	43
(7) 和歌山看護専門学校	45
(8) 法人本部	45
3. 理事会・評議員会の開催状況	48
4. 学位又は称号	54
(1) 取得可能な学位又は称号	54
(2) 学位授与数及び授与率	56
5. 学生生徒等納付金	57
6. 卒業及び就職等の状況	63
(1) 卒業者数・就職者数・進学者数等	63
(2) 主な就職先	65
7. 国家試験の受験状況	67
8. 退学者数・除籍者数・留年者数・中退率	69
(1) 退学者数	69
(2) 除籍者数	69
(3) 留年者数	69
(4) 中退率	70
9. 社会人学生数・留学生数・海外派遣学生数	70
(1) 社会人学生数	70
(2) 留学生数	70
(3) 海外派遣学生数	71
III. 財務の概要	72
1. 学校法人会計基準	72
2. 各科目の説明	72
3. 財政運営	75
4. 資金収支計算書	76
5. 事業活動収支計算書	77
6. 貸借対照表	78
7. 基本金	79
8. 財産目録	80
9. 主な財務比率	83

I. 法人の概要

1 名称・所在地

名 称	学校法人平成医療学園
理 事 長 名	岸野 雅方
所 在 地	〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎7-7-17
電 話 番 号	06-6375-7773
認 可 年 月 日	平成13年 3月 30日 大阪府知事認可 (準学校法人) 平成22年 10月 29日 文部科学大臣認可 (学校法人)

2 建学の理念

学校法人平成医療学園は、平成12年4月に「全国柔整鍼灸協同組合」が母体となり、柔道整復、はり、きゅう、あん摩マツサーズ指圧の施術を行っている治療家たちが、自らの後継者を自らの手で育てようという理念に基づき、厚生省（現：厚生労働省）から柔道整復師養成施設の認可を受け、「平成柔道整復専門学院」を開設したことに始まります。

本学園は、「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。」を目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」の育成に努めています。

3 沿革

2000(平成12)年 4月	厚生大臣から柔道整復師養成施設の認可を受け、「平成柔道整復専門学院」を開設
2001(平成13)年 4月	大阪府知事から準学校法人の認可を受け、併せて、「平成柔道整復専門学院」を「平成医療学園専門学校」に名称変更
2002(平成14)年 4月	「平成医療学園専門学校」に鍼灸師科を設置
2003(平成15)年 4月	「平成スポーツトレーナー専門学校」開設
2005(平成17)年 4月	「横浜医療専門学院」開設
2006(平成18)年 4月	「平成医療学園専門学校」に東洋療法教員養成学科を開設
2007(平成19)年 4月	「横浜医療専門学院」を「横浜医療専門学校」に名称変更
2009(平成21)年 4月	「大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校」を学校法人大阪産業大学から経営移管、校名を「なにわ歯科衛生専門学校」に名称変更
2010(平成22)年 3月	「平成スポーツトレーナー専門学校」廃校
2010(平成22)年 10月	文部科学大臣から「宝塚医療大学」設置認可
2011(平成23)年 4月	「宝塚医療大学」開学
2014(平成26)年 4月	「平成医療学園専門学校」に文化・教養専門課程日本語学科を開設
2017(平成29)年 10月	教育研究事業に付随する事業として「宝塚医療大学附属介護ステーション」開設
2019(平成31)年 4月	「宝塚医療大学」に留学生別科を開設

	「トライデントスポーツ医療看護専門学校」を学校法人河合塾学園から経営移管、校名を「名古屋平成看護医療専門学校」に名称変更 「平成医療学園専門学校」に文化・教養専門課程応用日本語学科を開設 「横浜医療専門学校」に文化・教養専門課程日本語学科を開設
2020(令和2)年 4月	「宝塚医療大学」に和歌山保健医療学部及び介護福祉別科を開設 「日本総合医療専門学校」を学校法人日本医科学総合学院との合併により開設
2021(令和3)年 3月	「和歌山看護専門学校」を公益社団法人和歌山県病院協会から経営移管
2022(令和4)年 4月	「宝塚医療大学」に和歌山保健医療学部看護学科及び社会福祉士養成課程（通信制）を開設
2023(令和5)年 4月	「宝塚医療大学」に保健医療学部口腔保健学科を開設 「日本総合医療専門学校」に鍼灸学科を開設 「福島医療専門学校」を学校法人福寿会との合併により開設

4 設置する学校

(令和5年5月1日現在)

学校名	学長・学校長名	所在地・電話番号	認可または届出年月日
宝塚医療大学 保健医療学部 理学療法学科 柔道整復学科 鍼灸学科 口腔保健学科	岸野 雅方	〒666-0162 兵庫県宝塚市花屋敷 緑ガ丘1 TEL：072-736-8600	平成22年10月29日 令和4年10月31日
和歌山保健医療学部 リハビリテーション学科 看護学科		〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島2252 TEL：073-488-3644 〒640-0112 和歌山県和歌山市西庄1107-26 TEL：073-456-5780	令和元年8月27日 令和3年10月22日
留学生別科 (大阪豊崎キャンパス) (東京キャンパス) (大阪難波キャンパス)		〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎7-7-17 TEL：06-6374-6300 〒116-0002 東京都荒川区荒川1-41-11 TEL：03-6458-3394 〒556-0016 大阪府大阪市浪速区元町二丁目6番21号 TEL：06-6641-6500	平成30年12月26日
介護福祉別科 (大阪豊崎キャンパス)		〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎7-7-17 TEL：06-6374-6300	令和2年3月31日
社会福祉士養成課程 (通信制)		〒666-0162 兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1 TEL：072-736-8600	令和4年3月10日

学校名	学校長名	所在地・電話番号	認可または届出年月日
平成医療学園専門学校 医療専門課程 柔道整復師科 鍼灸師科 東洋療法教員養成学科 文化・教養専門課程 日本語学科 応用日本語学科	北野 吉廣	〒531-0071 大阪府大阪市北区 中津6-10-15 TEL：06-6454-1500	平成13年3月30日
横浜医療専門学校 医療専門課程 柔道整復師科 鍼灸師科 文化・教養専門課程 日本語学科	岸野 佑宣	〒221-0056 神奈川県横浜市神奈川区 金港町9-12 TEL：045-440-1750	平成18年10月20日
なにわ歯科衛生専門学校 医療専門課程 歯科衛生士学科	古郷 幹彦	〒530-0011 大阪府大阪市北区 大深町2-179 TEL：06-6375-1400	平成20年12月2日
名古屋平成看護医療専門学校 医療専門課程 看護学科 理学療法学科 柔道整復学科 はり・きゅう学科 文化・教養専門課程 アスレティックトレーナー学科	高木 保子	〒464-0850 愛知県名古屋市千種区 今池1-5-31 TEL：052-735-1608	平成31年3月4日
日本総合医療専門学校 医療専門課程 柔道整復学科 鍼灸学科	齋藤 貴司	〒116-0002 東京都荒川区荒川1-41- 10 TEL：03-5850-3500	令和2年1月16日
和歌山看護専門学校 医療専門課程 看護学科	岸岡 史郎	〒640-0112 和歌山県和歌山市西庄1107-26 TEL：073-456-5780	令和3年3月4日
福島医療専門学校 医療専門課程 柔整科 鍼灸科 歯科衛生士科 文化・教養専門課程 日本語学科	飯島 正治	〒963-8026 福島県郡山市並木 3-2-23 TEL：024-933-0808	令和5年1月20日

5 学生数

(1) 入学定員・入学者数・入学定員充足率

◆ 宝塚医療大学

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
理学療法学科	70	65	92.9%
柔道整復学科	60	58	96.7%
鍼灸学科	30	24	80.0%
口腔保健学科	64	8	12.5%
保健医療学部 小計	224	155	69.2%
リハビリテーション学科	100	87	87.0%
看護学科	50	53	106.0%
和歌山保健医療学部 小計	150	140	93.3%
合計	374	295	78.9%

(注1) 令和4年度から、和歌山保健医療学部看護学科を開設。

(注2) 令和5年度から、保健医療学部口腔保健学科を開設。

別科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)	100※	41	—
留学生別科 (東京キャンパス)	1,600※	692	—
留学生別科 (大阪難波キャンパス)	700※	0	—
介護福祉別科	60	21	35.0%
合計	2,460	754	—

(注1) 令和5年度から、留学生別科 (東京キャンパス) の収容定員を変更、大阪難波キャンパスを開設。

(注2) 留学生別科は、収容定員で記載。

(注3) 留学生別科入学者数は、令和4年10月入学者も含む。

社会福祉士養成課程 (通信制)	入学定員	入学者数	入学定員充足率
短期養成課程 (9か月)	60	5	8.3%
一般養成課程 (1年9か月)	140	48	34.3%
合計	200	53	26.5%

(注) 令和4年度に、社会福祉士養成課程 (通信制) を開設。

◆ 平成医療学園専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔道整復師科 昼間	60	56	93.3%

鍼灸師科 昼間	57	44	77.2%
東洋療法教員養成学科	10	4	40.0%
医療専門課程 小計	127	104	81.9%
日本語学科 日本語1年コース	20	0	0.0%
日本語学科 医療福祉系1年コース	20	7	35.0%
日本語学科 進学1.5年コース	60	20	33.3%
日本語学科 進学2年コース	60	39	65.0%
応用日本語学科 1年コース	40	2	5.0%
応用日本語学科 2年コース	20	1	5.0%
文化・教養専門課程 小計	220	69	31.4%
合計	347	173	49.9%

(注1) 令和5年度から、鍼灸師科 昼間Ⅰ部(30名)とⅡ部(30名)とを統合し、入学定員を57名に変更。

(注2) 日本語学科 進学1.5年コースの入学人数は令和4年10月入学者を記載。

◆ 横浜医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学人数	入学定員充足率
柔道整復師科 昼間	60	55	91.7%
柔道整復師科 夜間	30	8	26.7%
鍼灸師科 昼間	60	53	88.3%
鍼灸師科 夜間	30	14	46.7%
医療専門課程 小計	180	130	72.2%
日本語学科 進学1.5年コース	20	17	85.0%
日本語学科 進学2年コース	20	21	105.0%
文化・教養専門課程 小計	40	38	95.0%
合計	220	168	76.4%

(注) 日本語学科 進学1.5年コースの入学人数は令和4年10月入学者を記載。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学人数	入学定員充足率
歯科衛生士学科 昼間	72	84	116.7%
歯科衛生士学科 夜間	36	42	116.7%
合計	108	126	116.7%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学人数	入学定員充足率
看護学科	40	44	110.0%

理学療法学科	30	29	96.7%
柔道整復学科 昼間部	30	18	60.0%
はり・きゅう学科 昼間部	40	40	100.0%
医療専門課程 小計	140	131	93.6%
アスレティックトレーナー学科	25	16	64.0%
文化・教養専門課程 小計	25	16	64.0%
合 計	165	147	89.1%

◆ 日本総合医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIコース	30	31	103.3%
鍼灸学科 スポーツ・メディカルはり・きゅうIコース	30	8	26.7%
合 計	60	39	65.0%

(注1) 令和5年度から、柔道整復学科スポーツ・ケアIコースの入学定員を60名から30名へ変更。

(注2) 令和5年度から、鍼灸学科スポーツ・メディカルはり・きゅうIコースを開設。

◆ 福島医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	入学定員充足率
柔整科 1部	60	50	83.3%
鍼灸科 1部	30	16	53.3%
歯科衛生士科 1部	40	34	85.0%
歯科衛生士科 2部	40	21	52.5%
医療専門課程 小計	170	121	71.2%
日本語学科 進学1.5年コース	90※2	0	—
日本語学科 進学2年コース		27	—
文化・教養専門課程 小計	90	27	—
合 計	260	148	—

(注1) 令和5年度に、福島医療専門学校を開設。

(注2) 日本語学科は、両コース合わせ収容定員数で記載。

(2) 収容定員・在学者数・収容定員充足率

◆ 宝塚医療大学

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
理学療法学科	280	257	91.8%
柔道整復学科	240	238	99.2%
鍼灸学科	120	107	89.2%
口腔保健学科	64	8	12.5%

保健医療学部 小計	704	610	86.6%
リハビリテーション学科	400	371	92.8%
看護学科	100	109	109.0%
和歌山保健医療学部 小計	500	480	96.0%
合 計	1,204	1,090	90.5%

(注1) 令和4年度に、和歌山保健医療学部看護学科を開設。

(注2) 令和5年度に、保健医療学部口腔保健学科を開設。

別科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)	100	99	99.0%
留学生別科 (東京キャンパス)	1,600	897	56.1%
留学生別科 (大阪難波キャンパス)	700	0	0.0%
介護福祉別科	120	54	45.0%
合 計	2,520	1,050	41.7%

(注) 令和5年度に、留学生別科 (東京キャンパス) の収容定員を1,000名から1,600名に変更。留学生別科 (大阪難波キャンパス) の開設。

社会福祉士養成課程 (通信制)	収容定員	在学者数	収容定員充足率
短期養成課程 (9か月)	60	5	8.3%
一般養成課程 (1年9か月)	280	55	19.6%
合 計	340	60	17.6%

(注) 令和4年度に、社会福祉士養成課程 (通信制) を開設。

◆ 平成医療学園専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	180	140	77.8%
柔道整復師科 昼間Ⅱ部	30	11	36.7%
鍼灸師科 昼間	57	45	78.9%
鍼灸師科 昼間Ⅰ部	60	37	61.7%
鍼灸師科 昼間Ⅱ部	60	22	36.7%
東洋療法教員養成学科	20	8	40.0%
医療専門課程 小計	407	263	64.6%
日本語学科 日本語1年コース	20	0	0.0%
日本語学科 医療福祉系1年コース	20	7	35.0%
日本語学科 進学1.5年コース	120	20	16.7%
日本語学科 進学2年コース	120	177	147.5%
応用日本語学科 1年コース	40	2	5.0%
応用日本語学科 2年コース	40	3	7.5%
文化・教養専門課程 小計	360	209	58.1%

合 計	767	472	61.5%
-----	-----	-----	-------

(注1) 令和4年度から、柔道整復師科昼間Ⅱ部の募集停止。

(注2) 令和5年度から、鍼灸師科 昼間Ⅰ部(30名)とⅡ部(30名)とを統合し、入学定員を57名に変更。

(注3) 日本語学科 進学1.5年コースの入学者数は令和4年10月入学者を記載。

◆ 横浜医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
柔道整復師科 昼間	180	167	92.8%
柔道整復師科 夜間	120	41	34.2%
鍼灸師科 昼間	180	148	82.2%
鍼灸師科 夜間	120	47	39.2%
医療専門課程 小計	600	403	67.2%
日本語学科 進学1.5年コース	20	17	85.0%
日本語学科 進学2年コース	40	33	82.5%
文化・教養専門課程 小計	60	50	83.3%
合 計	660	453	68.6%

(注1) 令和4年度から、柔道整復師科 夜間及び鍼灸師科 夜間の入学定員を60名から30名に変更。

(注2) 日本語学科 進学1.5年コースの入学者数は令和4年10月入学者を記載。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
歯科衛生士学科 昼間	216	235	108.8%
歯科衛生士学科 夜間	108	116	107.4%
合 計	324	351	108.3%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
看護学科	120	121	100.8%
理学療法学科	130	92	70.8%
柔道整復学科 昼間	114	63	55.3%
はり・きゅう学科 昼間	140	114	81.4%
医療専門課程 小計	504	390	77.4%
アスレティックトレーナー学科	50	33	66.0%
文化・教養専門課程 小計	50	33	66.0%
合 計	554	423	76.4%

(注) 令和4年度から、理学療法学科の入学定員を35名から30名、柔道整復師科を54名から30名、はり・きゅう学科を60名から40名に変更。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIコース	120	95	79.2%
柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアIIコース	30	0	0.0%
鍼灸学科 スポーツ・メディカルはり・きゅうIコース	30	8	26.7%
合計	180	103	57.2%

(注1) 令和4年度から、柔整スポーツ・ケアIコース30名及びIIコース30名を統合し、Iコースの入学定員を30名から60名に変更。

(注2) 令和5年度から、柔整スポーツ・ケアIコースの入学定員を60名から30名に変更し、鍼灸学科スポーツ・メディカルはり・きゅうIコースを開設。

◆ 和歌山看護専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
看護学科	50	35	70.0%
合計	50	35	70.0%

(注) 令和4年度から募集停止。

◆ 福島医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
柔整科 1部	180	152	84.4%
鍼灸科 1部	90	76	84.4%
歯科衛生士科 1部	120	105	87.5%
歯科衛生士科 2部	120	58	48.3%
医療専門課程 小計	510	391	76.7%
日本語学科 進学1.5年コース	90※2	0	—
日本語学科 進学2年コース		63	—
文化・教養専門課程 小計	90	63	70.0%
合計	600	454	75.7%

(注1) 令和5年度に、福島医療専門学校を開設。

(注2) 日本語学科は、両コース合わせた収容定員で記載。

(3) 入学者数の推移

◆ 宝塚医療大学

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
----	-------	-------	-------	-------	-------

理学療法学科	77	74	64	68	65
柔道整復学科	72	77	73	58	58
鍼灸学科	35	35	25	39	24
口腔保健学科	—	—	—	—	8
保健医療学部 小計	184	186	162	165	155
リハビリテーション学科	—	102	101	107	87
看護学科	—	—	—	56	53
和歌山保健医療学部 小計	—	102	101	163	140
合 計	184	288	263	328	295

※1 令和2年度に和歌山保健医療学部リハビリテーション学科を開設。

※2 令和4年度に和歌山保健医療学部看護学科を開設。

※3 令和5年度に保健医療学部口腔保健学科を開設。

別科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
留学生別科（大阪豊崎キャンパス）	—	0	6※1	67※2	41※3
留学生別科（東京キャンパス）	—	0	2※1	234※2	692※3
留学生別科（大阪難波キャンパス）	—	—	—	—	0
介護福祉別科	—	24	22	36	21
合 計	—	24	30	337	754

※1 進学1年6ヶ月課程の入学者（令和2年10月入学生）6名（大阪豊崎）、0名（東京）を含む。

※2 進学1年6ヶ月課程の入学者（令和3年10月入学生）0名（大阪豊崎）、0名（東京）を含む。

※3 進学1年6ヶ月課程の入学者（令和4年10月入学生）23名（大阪豊崎）、462名（東京）を含む。

※4 令和2年度に大阪豊崎キャンパス及び東京キャンパスを開設

※5 令和5年度に大阪難波キャンパスを開設。

社会福祉士養成課程（通信制）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
短期養成課程（9か月）	—	—	—	1	5
一般養成課程（1年9か月）	—	—	—	7	48
合 計	—	—	—	8	53

※ 令和4年度に社会福祉士養成課程（通信制）を開設。

◆ 平成医療学園専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
柔道整復師科	66	46	39	57	56
鍼灸師科	45	54	41	26	44
東洋療法教員養成学科	0	4	4	4	4
医療専門課程 小計	111	104	84	87	104
日本語学科	103※1	29※2	82※3	146※4	66※5
応用日本語学科	21	26	33	17	3
文化・教養専門課程 小計	124	55	115	163	69
合 計	235	159	199	250	173

※1 進学1.5年コースの入学者（平成30年10月入学生）33名を含む。

- ※2 進学1.5年コースの入学者（令和元年10月入学生）29名を掲載。
- ※3 進学1.5年コースの入学者（令和2年10月入学生）82名を掲載。
- ※4 進学1.5年コースの入学者（令和3年10月入学生）0名を含む。
- ※5 進学1.5年コースの入学者（令和4年10月入学生）20名を含む。

◆ 横浜医療専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
柔道整復師科	86	89	75	83	63
鍼灸師科	63	62	71	76	67
医療専門課程 小計	149	151	146	159	130
日本語学科	0	1※1	0※2	11※3	38※4
文化・教養専門課程 小計	0	1	0	11	38
合計	149	152	146	170	168

- ※1 進学1.5年コースの入学者（令和元年10月入学生）1名を掲載。
- ※2 進学1.5年コース（令和2年10月入学生）は募集なし。
- ※3 進学1.5年コースの入学者（令和3年10月入学生）は0名を含む。
- ※4 進学1.5年コースの入学者（令和4年10月入学生）は17名を含む。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
歯科衛生士学科	120	120	120	124	126
合計	120	120	120	124	126

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
看護学科	38	31	40	42	44
理学療法学科	9	14	26	29	29
柔道整復学科	0	9	23	27	18
はり・きゅう学科	9	23	39	40	40
医療専門課程 小計	56	77	128	138	131
アスレティックトレーナー学科	0	9	16	19	16
文化・教養専門課程 小計	0	9	16	19	16
合計	56	86	144	157	147

- ※ 令和2年度から、柔道整復学科及びはり・きゅう学科の夜間部、プロフェッショナルトレーナー学科の廃止。トレーナー学科からアスレティックトレーナー学科へ名称変更。

◆ 日本総合医療専門学校

（各年度5月1日現在、単位：名）

学科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
柔道整復学科 柔整ｽﾌﾟｰｰﾝ・ｸﾞｱⅠｺｰｽ	30	30	23	31	31
柔道整復学科 柔整ｽﾌﾟｰｰﾝ・ｸﾞｱⅡｺｰｽ	—	22	0	—	—

柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアコース夜間部	10	—	—	—	—
鍼灸学科 スポーツ・メディカルはり・きゅうⅠコース	—	—	—	—	8
合 計	40	52	23	31	39

※1 令和元年度は、旧日本総合医療専門学校による実績。

※2 令和2年度から、柔整スポーツ・ケアⅡコースの開設、柔整スポーツ・ケアコース夜間部の廃止。

※3 令和4年度から、柔整スポーツ・ケアⅠコース30名及びⅡコース30名を統合。

※4 令和5年度から、鍼灸学科 スポーツ・メディカルはり・きゅうⅠコースを開設。

◆ 和歌山看護専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
看護学科	42	43	36	—	—
合 計	42	43	36	—	—

※ 令和元年度～令和2年度は、旧和歌山看護専門学校による実績。令和4年度から募集停止。

◆ 福島医療専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
柔整科 1部	59	63	52	55	50
鍼灸科 1部	25	32	34	30	16
歯科衛生士科 1部	40	40	38	40	34
歯科衛生士科 2部	25	27	19	19	21
医療専門課程 小計	149	162	143	144	121
日本語学科	5	26※3	9※4	52※5	27※6
文化・教養専門課程 小計	5	26	9	52	27
合 計	154	188	152	196	148

※1 令和元年度～令和4年度は、旧福島医療専門学校の実績。

※2 令和元年度から、進学1.5年コースを開設。

※3 進学1.5年コースの入学者（令和元年10月入学生）7名を含む。

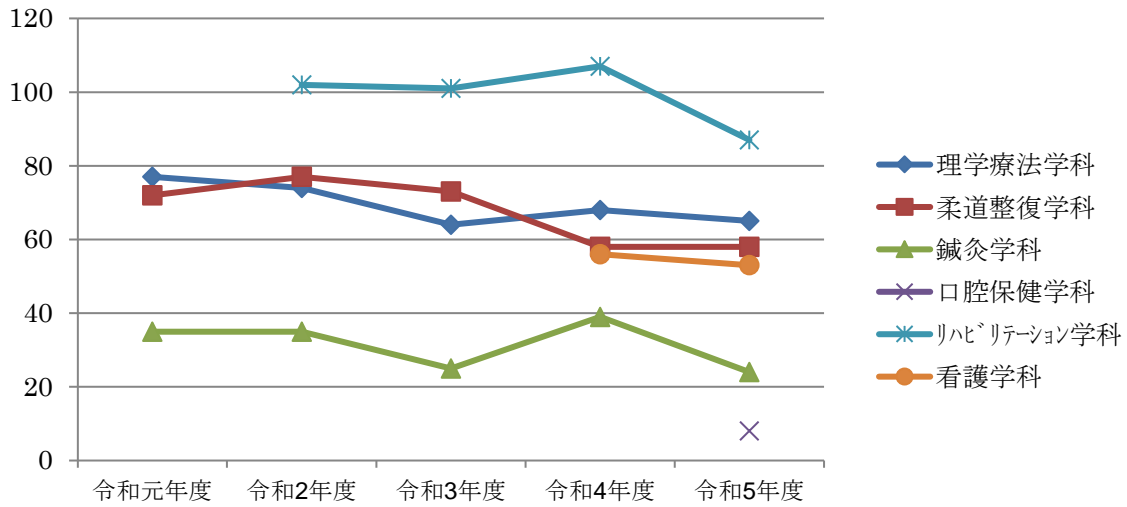
※4 進学1.5年コースの入学者（令和2年10月入学生）9名を含む。

※5 進学1.5年コースの入学者（令和3年10月入学生）0名を含む。

※6 進学1.5年コースの入学者（令和4年10月入学生）0名を含む。

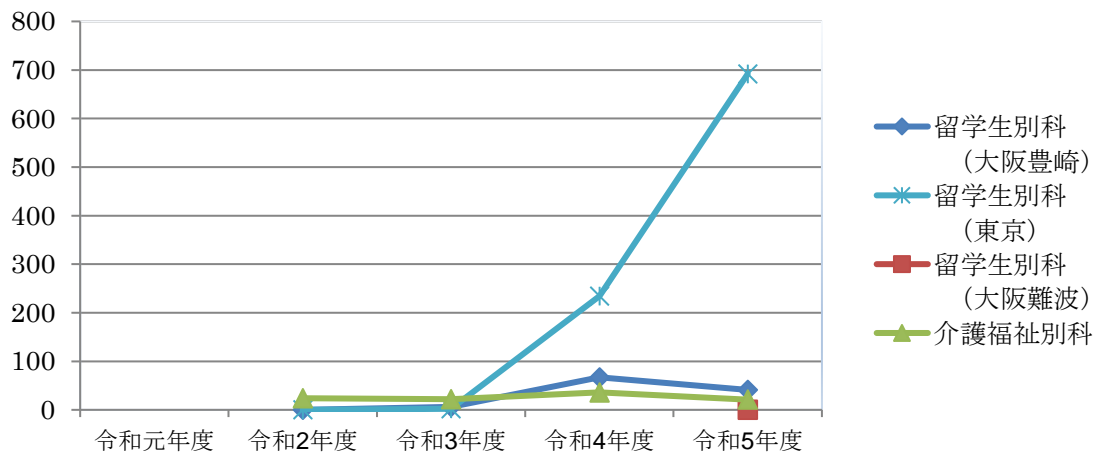
宝塚医療大学 入学者数の推移

(単位：名)



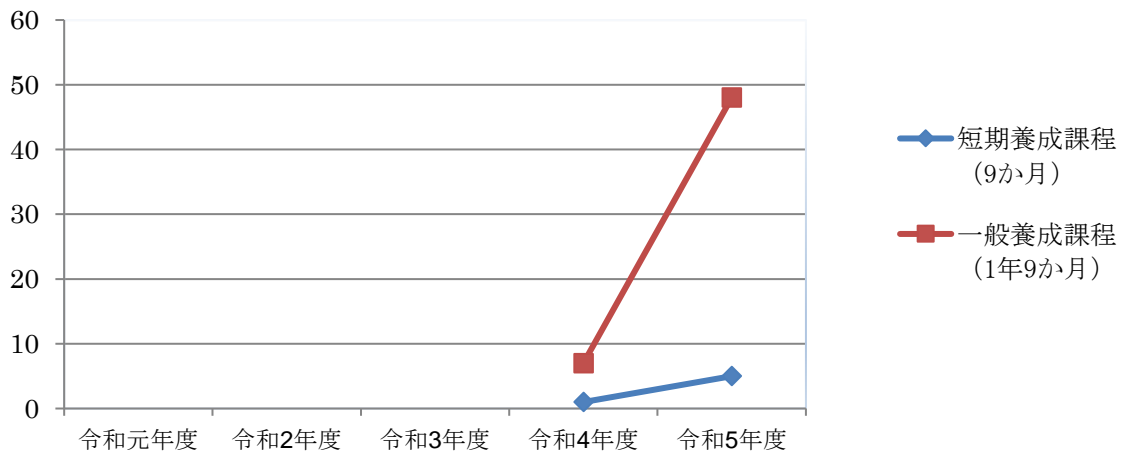
宝塚医療大学 別科 入学者数の推移

(単位：名)



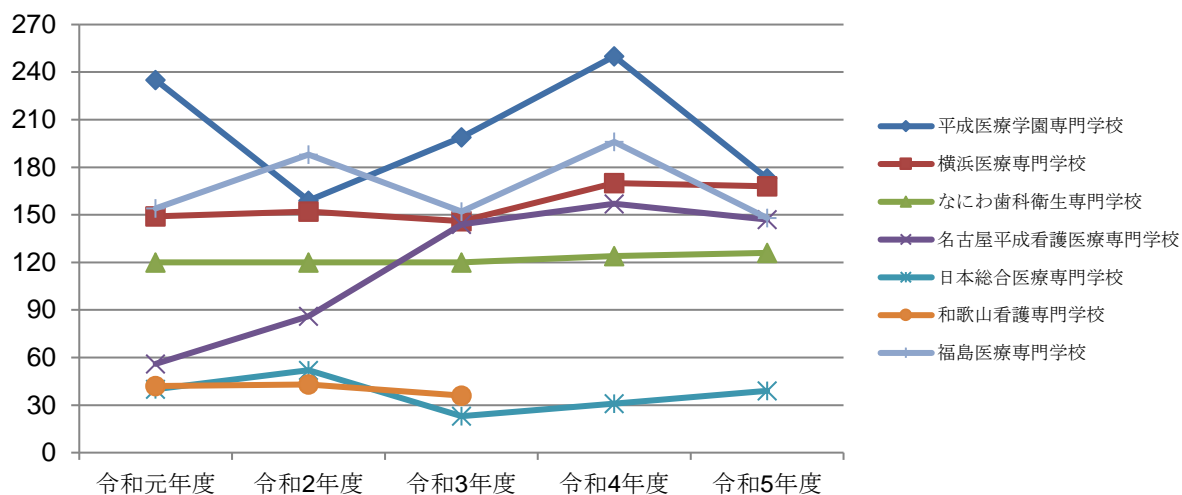
宝塚医療大学 社会福祉士養成課程 (通信制) 入学者数の推移

(単位：名)



各専門学校 入学者数の推移

(単位：名)



(4) 専任教員1人当たりの学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	学生数	専任教員数	専任教員1人当たりの学生数
理学療法学科	257	17	15.1
柔道整復学科	238	15	15.9
鍼灸学科	107	15	7.1
口腔保健学科	8	7	1.1
保健医療学部	610	54	11.3
リハビリテーション学科	371	23	16.1
看護学科	109	20	5.5
和歌山保健医療学部	480	43	11.2
合計	1,090	97	11.2

(注1) 鍼灸学科専任教員には学長を含む。

(注2) 専任教員には助手を含む。

別科	学生数	専任教員数	専任教員1人当たりの学生数
留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)	99	3	33.0
留学生別科 (東京キャンパス)	897	1	897.0
留学生別科 (大阪難波キャンパス)	0	0	0.0
介護福祉別科	54	4	13.5
合計	1,050	8	131.3

社会福祉士養成課程（通信制）	学生数	専任教員数	専任教員1人 当たりの学生数
短期養成課程（9か月）	5	2	2.5
一般養成課程（1年9か月）	55		27.5
合 計	60	2	30.0

◆ 理事・監事（定数：理事 10 人以上 15 人以内、監事 2 人以上 4 人以内）

（令和5年5月1日現在）

	号数	氏名	就(重)任 年月日	常勤/ 非常勤	主な現職等
理事長	1号	岸野 雅方※	R5.4.1	常勤	宝塚医療大学学長 公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人札幌青葉学園理事長
常務 理事	4号	岸野 政子※	R5.4.1	常勤	社会福祉法人山の子会理事
理事	2号	北野 吉廣	R5.4.1	常勤	平成医療学園専門学校校長
	3号	岡田 光司※	R5.4.1	常勤	なにわ歯科衛生専門学校統括長 有限会社アフターメディカル代表取締役会長 学校法人札幌青葉学園理事
		小原 教孝※	R5.4.1	常勤	宝塚医療大学教員・統括長
		中谷 裕之※	R5.4.1	常勤	平成医療学園専門学校統括長 オリエントメディカルサービス株式会社 代表取締役社長
	4号	浅谷 佐智子	R5.4.1	非常勤	株式会社エビススポーツマッサージ社長
		木野 達司※	R5.4.1	常勤	福島医療専門学校副校長・統括長
		榊 典夫	R5.4.1	非常勤	大阪府国民健康保険柔整療養費審査委員 宝塚医療大学教員
		塚原 康夫	R5.4.1	非常勤	全国柔整鍼灸協同組合事務局長 平成医療学園専門学校教員
		土江 直一	R4.4.1	非常勤	公益社団法人全国柔整鍼灸協会監事
		樺山 哲男	R5.4.1	非常勤	株式会社テックス代表取締役
		吉田 洪先※	R5.4.1	常勤	横浜医療専門学校教員・統括長
監事	—	吉田 明代	R5.4.1	常勤	職業訓練法人東京都調理職業訓練協会監事
	—	永井 隆世	R4.3.1	非常勤	社会福祉法人山の子会監事

（注）※印は常任理事会理事。

理事の選任（寄附行為第7条（抄））

第7条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人が設置する大学の学長
- (2) この法人が設置する専門学校の校長のうちから理事会において選任した者 1人
- (3) 評議員のうちから評議員会において選任した者 2人以上
- (4) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 6人以上

◆ 評議員（定数：23 人以上 31 人以内）

（令和5年5月1日現在）

	号数	氏名	就(重)任年月日	主な現職等
評議員	第1号	内野 勝郎	R5.4.1	宝塚医療大学教員
		小原 教孝	R5.4.1	宝塚医療大学教員・統括長
		岸野 佑宣	R5.4.1	横浜医療専門学校校長

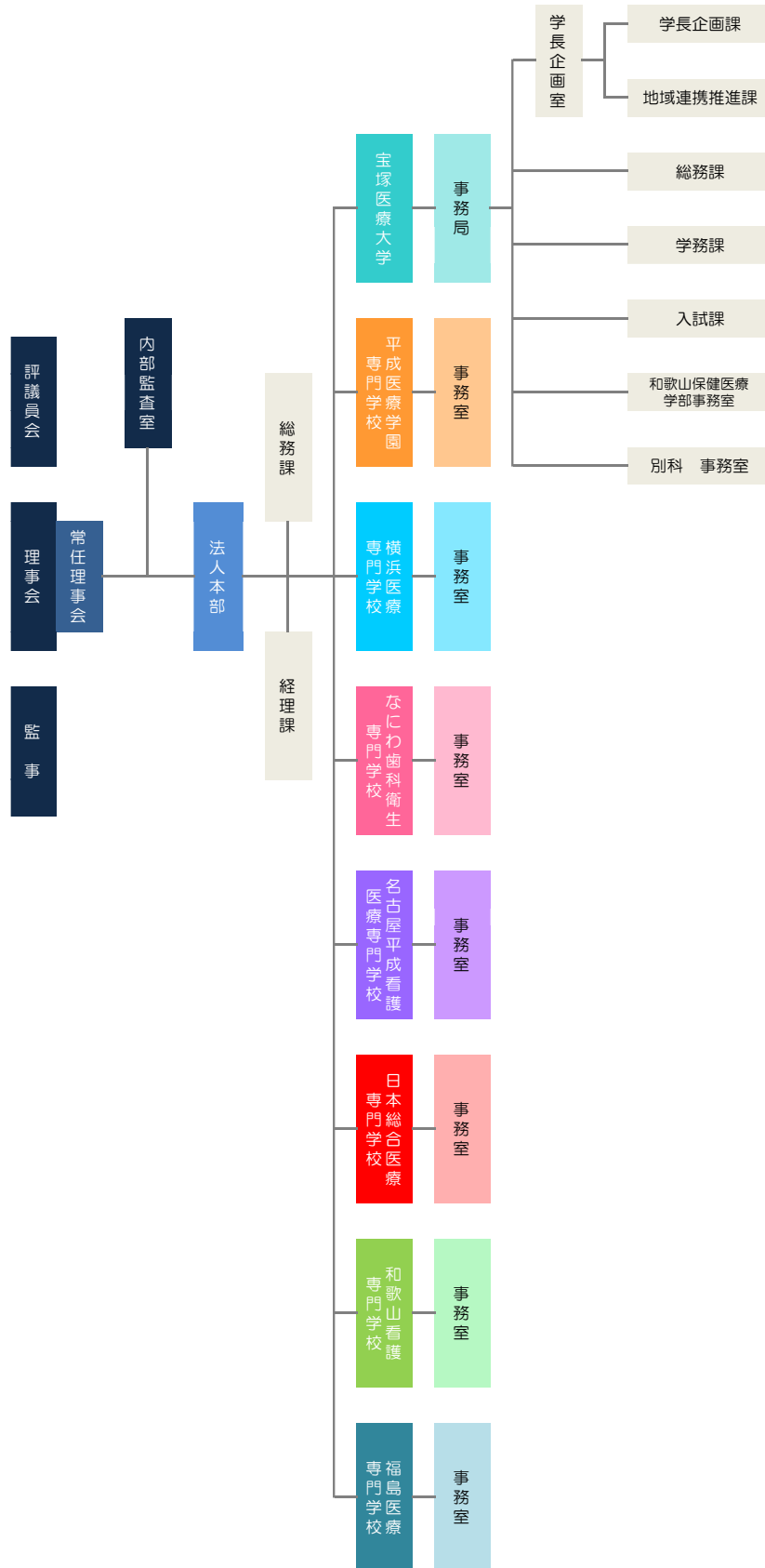
	第2号	北野 吉廣	R5.4.1	平成医療学園専門学校校長
		高木 保子	R5.4.1	名古屋平成看護医療専門学校校長
		岸野 庸平	R5.4.1	学校法人札幌青葉学園理事 札幌青葉鍼灸柔整専門学校校長
		清水 公美子	R5.4.1	しみず鍼灸院
		竹本 晋史	R5.4.1	平成医療学園専門学校教員
		西口 佐智子	R5.4.1	株式会社方円代表取締役
		松本 尚純	R5.4.1	まつもと整骨院 まつもと鍼灸院 平成医療学園専門学校教員
	第3号	浅谷 佐智子	R5.4.1	株式会社エビススポーツマッサージ社長
		岡田 光司	R5.4.1	なにわ歯科衛生専門学校統括長 有限会社アフターメディカル代表取締役会長 学校法人札幌青葉学園理事
		勝浦 政夫	R5.4.1	勝浦鍼灸院 勝浦接骨院 平成医療学園専門学校教員
		岸野 政子	R5.4.1	社会福祉法人山の子会理事
		岸野 雅方	R5.4.1	宝塚医療大学学長 公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人札幌青葉学園理事長
		木野 達司	R5.4.1	福島医療専門学校副校長・統括長
		榊 典夫	R5.4.1	大阪府国民健康保険柔整療養費審査委員 宝塚医療大学教員
		佐原 道啓	R5.4.1	佐原整骨院 平成医療学園専門学校教員
		塚原 康夫	R5.4.1	全国柔整鍼灸協同組合事務局長 平成医療学園専門学校教員
		中谷 裕之	R5.4.1	平成医療学園専門学校統括長 オリエントメディカルサービス株式会社 代表取締役社長
		西尾 頼政	R5.4.1	ミツワ電機工業株式会社
		林 康蔵	R5.4.1	林鍼灸・接骨院 経営 平成医療学園専門学校教員
		平賀 修司	R5.4.1	ガリバー・インターナショナル株式会社
樺山 哲男	R5.4.1	株式会社テックス代表取締役		
吉井 保	R3.12.8			
吉田 洪先	R5.4.1	横浜医療専門学校教員・統括長		

評議員の選任（寄附行為第26条（抄））

第26条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人の職員のうちから評議員会において選任した者 5人
- (2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上のもののうちから理事会において選任した者 5人
- (3) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 13人以上

(令和5年5月1日現在)



8 教職員数

(1) 教職員数

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	専任		非常勤者等	
	教員	職員	教員	職員
法人本部	0	18	0	1
宝塚医療大学保健医療学部	54	24	25	23
宝塚医療大学和歌山保健医療学部	43	11	32	1
宝塚医療大学留学生別科(大阪豊崎キャンパス)	3	3	11	1
宝塚医療大学留学生別科(東京キャンパス)	1		0	0
宝塚医療大学留学生別科(大阪難波キャンパス)	0		0	0
宝塚医療大学介護福祉別科	4		7	0
宝塚医療大学社会福祉士養成課程	2	0	0	0
平成医療学園専門学校	24	19	62	3
横浜医療専門学校	25	16	24	2
なにわ歯科衛生専門学校	20	11	91	2
名古屋平成看護医療専門学校	35	16	100	8
日本総合医療専門学校	13	10	14	0
和歌山看護専門学校	5	2	6	0
福島医療専門学校	35	43	53	4
宝塚医療大学附属介護ステーション	1	1	0	0
福寿リハビリ介護ステーション	1	5	0	2
ふくじゅ居宅介護支援事業所	0	1	0	0
合 計	266	180	425	47

(注) 専任教員には助手を含む。

(2) 年齢別専任教員数

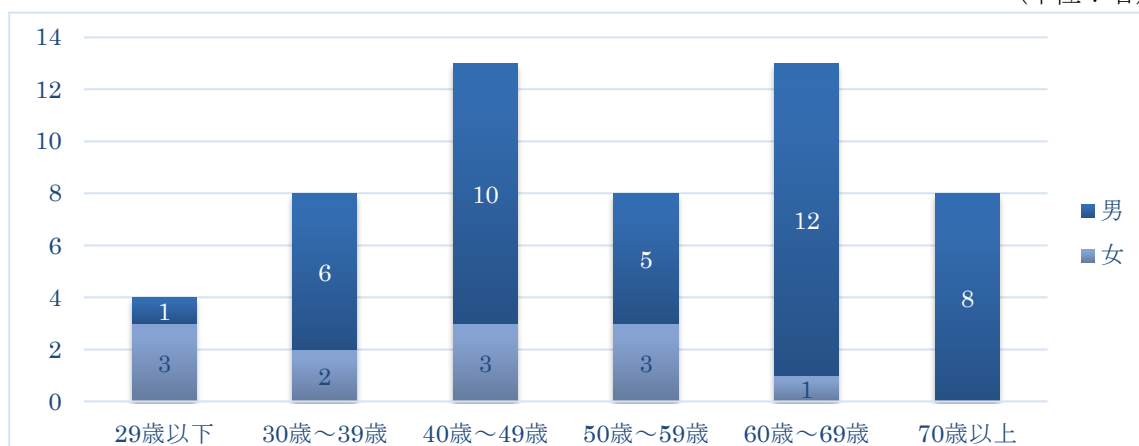
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	1	6	10	5	12	8	42
女	3	2	3	3	1	0	12
合 計	4	8	13	8	13	8	54

年齢別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



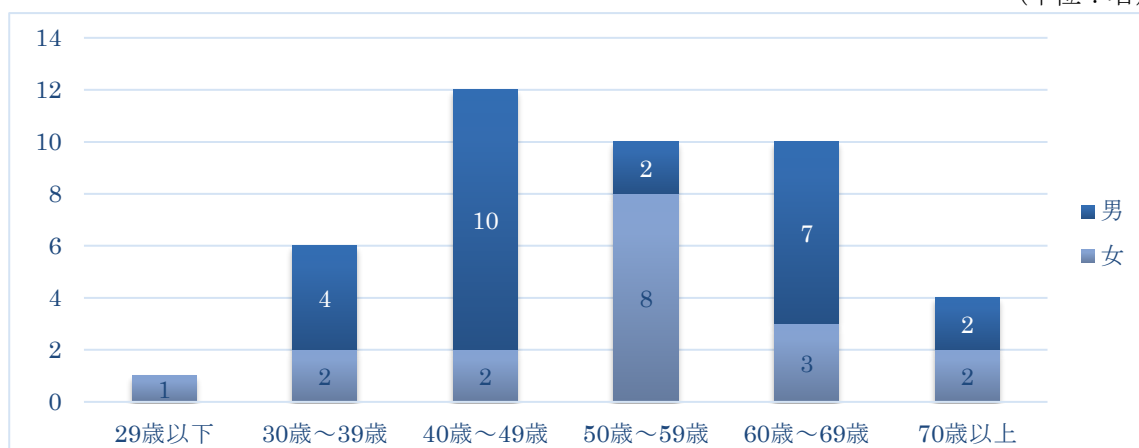
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	4	10	2	7	2	25
女	1	2	2	8	3	2	18
合計	1	6	12	10	10	4	43

年齢別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)



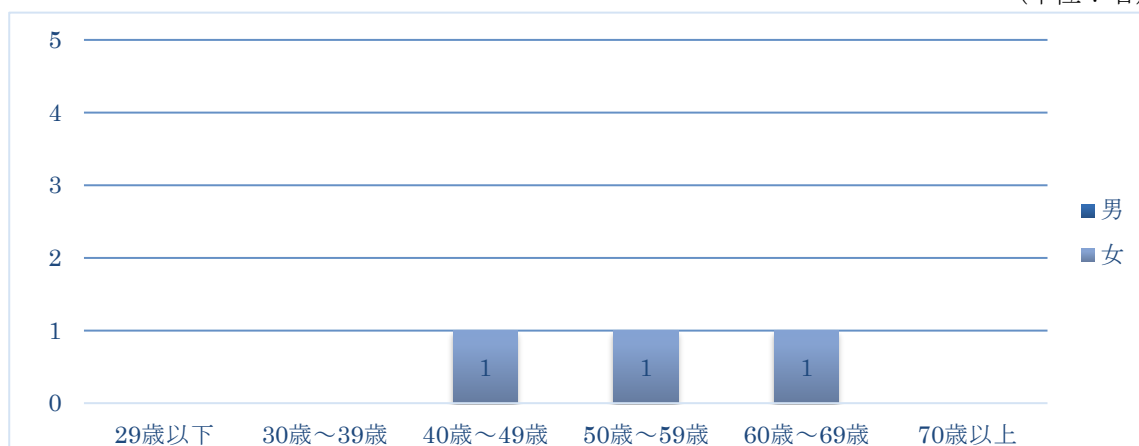
◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪豊崎キャンパス）

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	1	1	1	0	3
合計	0	0	1	1	1	0	3

年齢別留学生別科（大阪豊崎キャンパス）専任教員数

（単位：名）



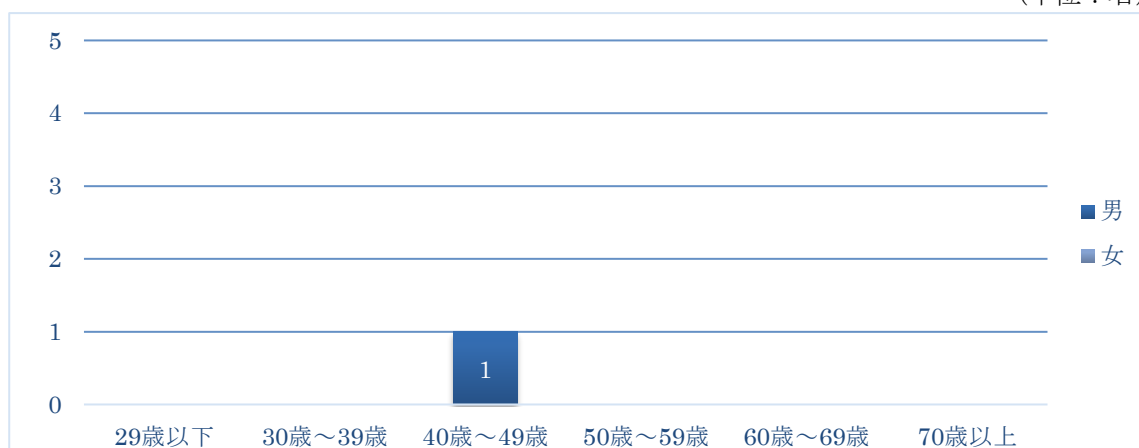
◆ 宝塚医療大学 留学生別科（東京キャンパス）

（令和5年5月1日現在、単位：名）

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	1	0	0	0	1
女	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	0	0	0	1

年齢別留学生別科（東京キャンパス）専任教員数

（単位：名）



◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪難波キャンパス）

（令和5年5月1日現在、単位：名）

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

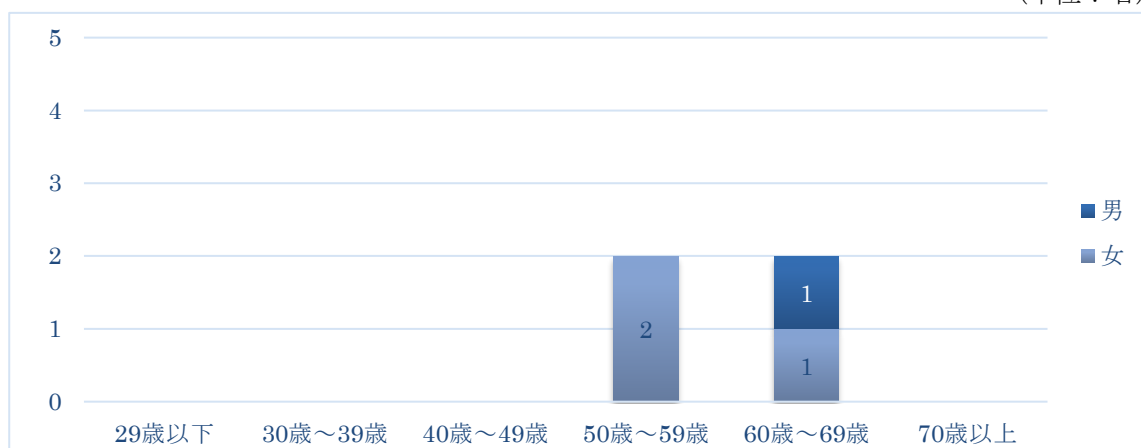
◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	1	0	1
女	0	0	0	2	1	0	3
合計	0	0	0	2	2	0	4

年齢別介護福祉別科専任教員数

(単位：名)



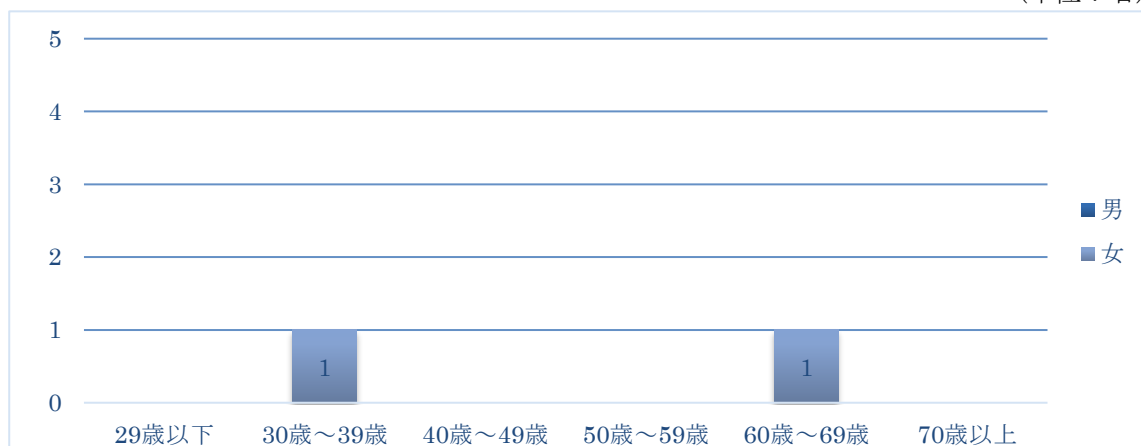
◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	0	1	0	0	1	0	2
合計	0	1	0	0	1	0	2

年齢別社会福祉士養成課程専任教員数

(単位：名)



(3) 職階別専任教員数

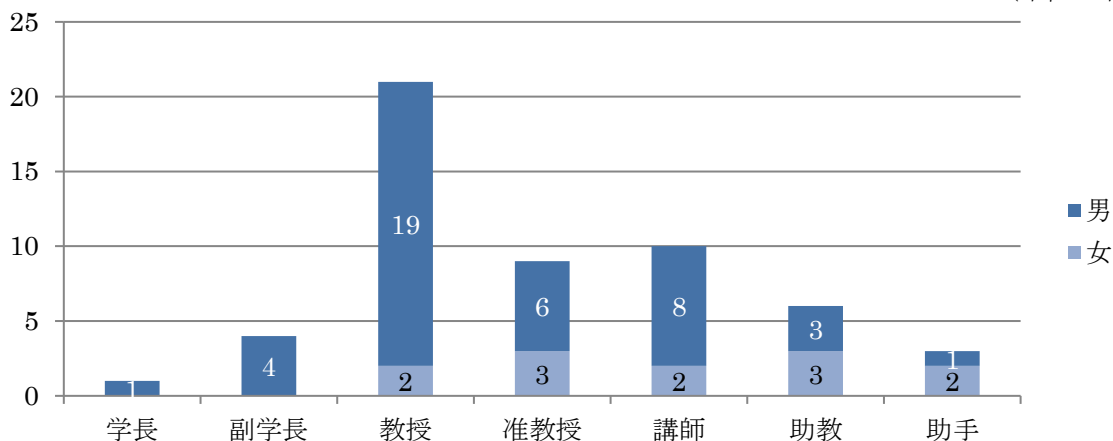
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	1	4	19	6	8	3	1	42
女	0	0	2	3	2	3	2	12
合計	1	4	21	9	10	6	3	54

職階別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



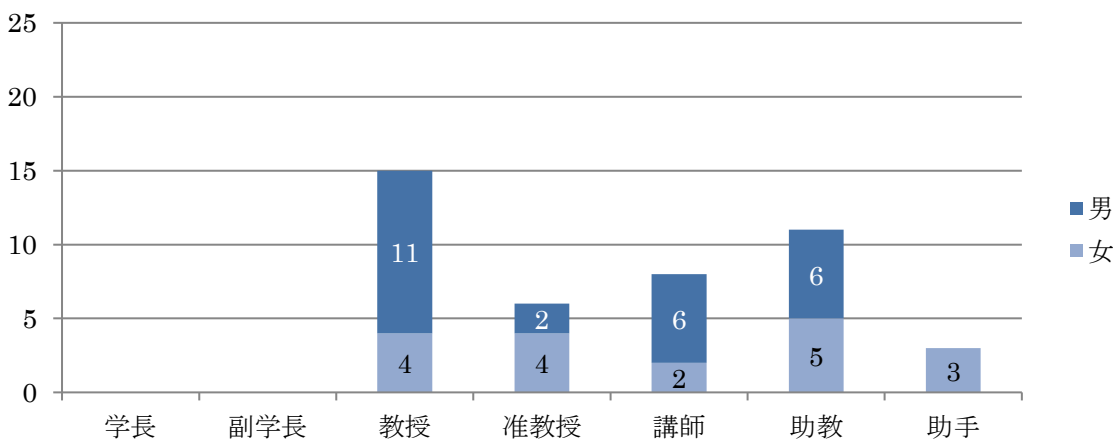
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
男	0	0	11	2	6	6	0	25
女	0	0	4	4	2	5	3	18
合計	0	0	15	6	8	11	3	43

職階別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)

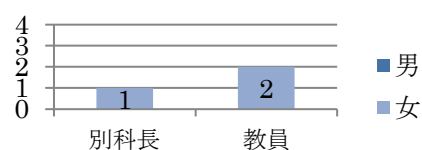


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪豊崎キャンパス）

（令和5年5月1日現在、単位：名）

	別科長	教員	計
男	0	0	0
女	1	2	3
合計	1	2	3

職階別留学生別科（大阪豊崎キャンパス）専任教員数（単位：名）

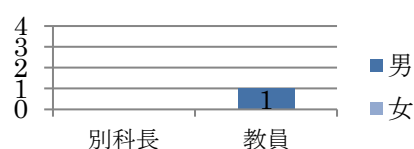


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（東京キャンパス）

（令和5年5月1日現在、単位：名）

	別科長	教員	計
男	0	1	1
女	0	0	0
合計	0	1	1

職階別留学生別科（東京キャンパス）専任教員数（単位：名）



◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪難波キャンパス）

（令和5年5月1日現在、単位：名）

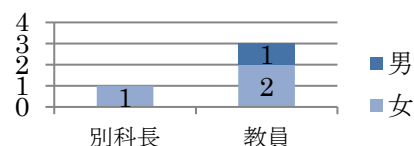
	別科長	教員	計
男	0	0	0
女	0	0	0
合計	0	0	0

◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

（令和5年5月1日現在、単位：名）

	別科長	教員	計
男	0	1	1
女	1	2	3
合計	1	3	4

職階別介護福祉別科専任教員数（単位：名）

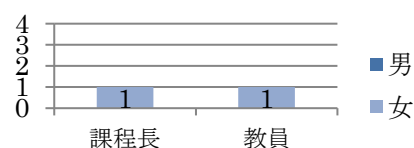


◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

（令和5年5月1日現在、単位：名）

	課程長	教員	計
男	0	0	0
女	1	1	2
合計	1	1	2

職階別社会福祉士養成課程専任教員数（単位：名）



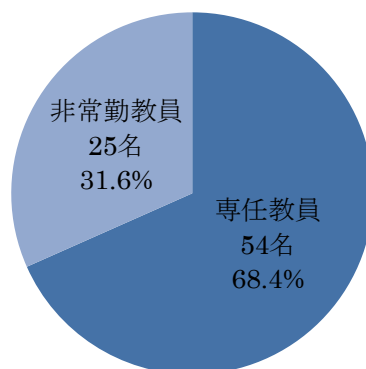
(4) 専任教員・非常勤教員比率

◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

（令和5年5月1日現在、単位：名）

	人数	割合
専任教員	54	68.4%
非常勤教員	25	31.6%
合計	79	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

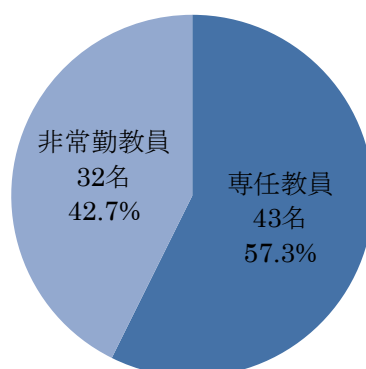


◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	43	57.3%
非常勤教員	32	42.7%
合 計	75	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

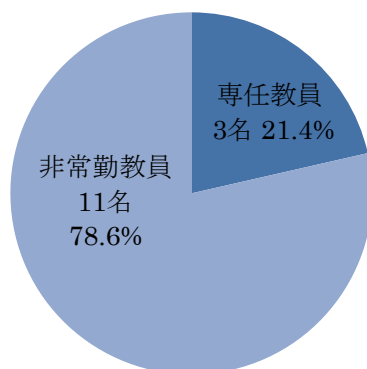


◆ 宝塚医療大学 留学生別科 (大阪豊崎キャンパス)

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	3	21.4%
非常勤教員	11	78.6%
合 計	14	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

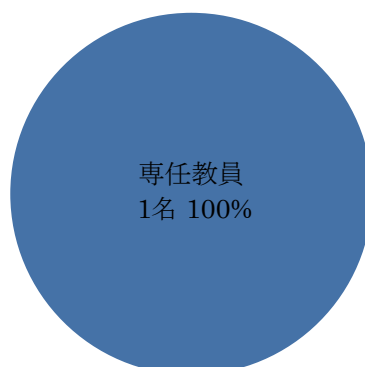


◆ 宝塚医療大学 留学生別科（東京キャンパス）

（令和5年5月1日現在、単位：名）

	人数	割合
専任教員	1	100.0%
非常勤教員	0	0.0%
合 計	1	100.0%

専任教員・非常勤教員比率



◆ 宝塚医療大学 留学生別科（大阪難波キャンパス）

（令和5年5月1日現在、単位：名）

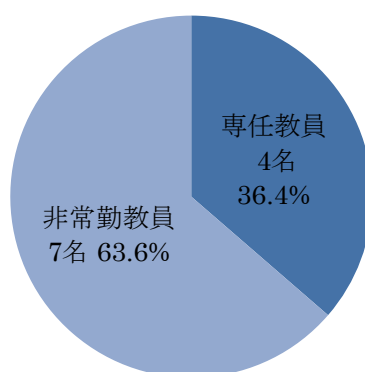
	人数	割合
専任教員	0	0.0%
非常勤教員	0	0.0%
合 計	0	0.0%

◆ 宝塚医療大学 介護福祉別科

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	4	36.4%
非常勤教員	7	63.6%
合 計	11	100.0%

専任教員・非常勤教員比率

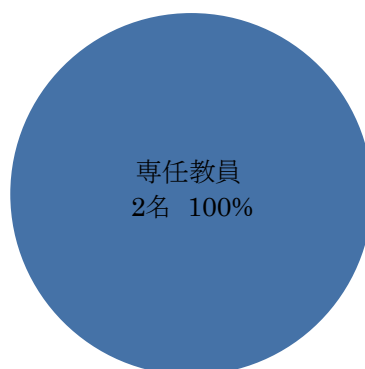


◆ 宝塚医療大学 社会福祉士養成課程

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	人数	割合
専任教員	2	100.0%
非常勤教員	0	0.0%
合 計	2	100.0%

専任教員・非常勤教員比率



II. 事業の概要

1 基本的な方針

本学園は、教育研究体制の整備充実を図るとともに、教育内容のより一層の改善・充実や施設設備の整備等を行うことによって、多様な社会の要請に応える有為な人材の育成に努めます。また、少子高齢化の進展に伴う18歳人口の減少等の社会情勢の変化に的確に対応し、学園の円滑な運営を行い今後の更なる発展を期するために、入学者の確保や経営の効率化などにより財政基盤の着実な強化を図ります。

2 事業の実施状況

(1) 宝塚医療大学

① 入学者の確保

令和5年度学生募集においては、保健医療学部、和歌山保健医療学部、留学生別科及び介護福祉別科、社会福祉士養成課程で以下の通り募集活動を実施しました。

【保健医療学部、和歌山保健医療学部】

本学での学びの特色を、ホームページの他、進学情報誌・サイト（媒体）により広く告知し、資料請求数は5,700件弱と前年（4,400件弱）を大きく上回りました。

オープンキャンパスは、コロナ禍の状況を踏まえながら実施し、令和3年度とほぼ同数の参加を得ました。高校生等（同伴者を含まない）の参加者数（のべ）は、宝塚キャンパスで474人（対前年113%、実施回数を前年の9回から11回へ変更）、和歌山キャンパスで509人（対前年95%、実施回数を前年の10回から9回に変更）という結果でした。令和2年度より始めた、Web上でのバーチャルオープンキャンパスページや、ホームページ上でのキャンパスツアービデオ、校舎の360度VRなどが好評であったことから、定期的なブログ掲載などWeb上の広報活動の充実を図りました。またインスタグラムなどSNS媒体の展開も行いました。

高校訪問は、学校推薦型選抜（指定校推薦）の学生募集に寄与しているため、コロナ禍もやや落ち着いたことから訪問回数を多く取るようにしました。宝塚キャンパスは京阪神、中四国を、和歌山キャンパスは和歌山県、中四国を重点エリアとして、京阪神で664回、中四国で84回、和歌山県で25回訪問しました。その他の地域を含め、総訪問数は891回となり、対前年160.8%（新設の口腔保健学科、設置認可申請中の観光学部は含まず）となっています。

これらの取組の結果、令和5年度の入学者数は、宝塚キャンパスで保健医療学部 理学療学科65名（充足率92.9%）、柔道整復学科58名（同96.7%）、鍼灸学科24名（同80.0%）、新設の口腔保健学科8名（12.5%）、学部全体で155名（同69.2%）、和歌山キャンパスで和歌山保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻64名（充足率106.7%）、作業療法学専攻23名（同57.5%）、看護学科53名（106.0%）、学部全体で140名（同93.3%）となりました。

【留学生別科、介護福祉別科】

留学生別科及び介護福祉別科については、外国人留学生の受入れを中心とした広報活動を実施しました。コロナ禍により海外の現地日本語学校等での説明会はできませんでしたが、オンラインで現地学生とコンタクトをとりました。また国内においては、介護留学生支援企業との提携、日本語学校へのアプローチを積極的に行い、国内留学生向けのオープンキャンパスを19回実施し（個別対応を含む）参加者数は37名となりました。

これらの取組の結果、令和5年度の入学者数は、留学生別科（大阪豊崎キャンパス）41名（令和4年10月入学生23名を含む。）、留学生別科（東京キャンパス）692名（令和4年10月入学生

462名を含む。) 、介護福祉別科(大阪豊崎キャンパス) 21名(充足率35.0%) となりました。これまでコロナ禍の状況で、特に留学生別科では入国制限の影響を強く受けていましたが、大きく緩和されたことで、多くの学生を受け入れることができました。

【社会福祉士養成課程】

社会福祉士養成課程については、通信制ということ、また受験要件が設けられていることから、インターネットを中心とした広報活動を行いました。令和5年度は前年よりも大きく増加し、一般養成課程48名(充足率34.3% 前年比485.7%)、短期養成課程4名(同6.7% 前年比400.0%) となりました。

② 教育の充実

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のいわゆる第7波・第8波により、引き続き楽観できない状況が継続しましたが、令和2年度からの感染予防対策を継続して行うとともに、授業については、可能な限り対面での授業が行えるよう努めました。学内における罹患者は発生しましたが、クラスターには至らず、教育を継続することができました。

保健医療学部では、令和2年度から継続して検討してきた初年次教育に関する検討を経て、理学療法学科、柔道整復学科、鍼灸学科での導入教育に関する新たな授業科目を追加する教育課程変更に関する申請を行い令和4年度入学生からは、新たな教育課程による授業を実施しています。

和歌山保健医療学部では、リハビリテーション学科では3期生の受入れを行いました。令和3年度に看護学科設置の認可を受け、令和4年度からは、リハビリテーション学科と看護学科の2学科での教育がスタートしています。

留学生別科においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本学別科に合格しながら入国できない状態が続きました。こうした学生に対しては入学時期を柔軟に対応するなどの対策を行うとともに、オンラインでも面接等を実施しました。

介護福祉別科では、3期生の受入れを行いました。大学と連携しながら新型コロナウイルス感染症の感染対策を行い、授業や介護施設での実習を実施しました。また2期生25名全員が希望する進路に就くことができました。令和5年度も継続して介護専門職の養成に努めます。

令和4年度より開設した社会福祉士養成課程では、通信制の利点を生かし、遠方の学生の確保を行うとともに、全国のグループ校をスクーリング会場として展開を行いました。

開学以来、継続して実施している授業評価アンケートについても、オンライン授業に関する設問を継続して実施し、オンライン授業の教育効果について確認するとともに、教員にフィードバックを行いました。これらの取組を通して教員の教育力向上を図るとともに、授業評価アンケートの結果をわかりやすくまとめ、令和元年度の前・後期の授業評価アンケート以降全体の集計結果を教育情報として公表しています。

令和3年度には、保健医療学部において新たにメンター(チューター) 制度を導入しました。この制度により、各教員が複数の学生を担当し、相談・指導等に責任を持って当たる体制を作りました。一層の学生指導の充実を図るとともに、中途退学の減少を目的として導入しました。

これに伴い、毎年教員から提出を受けている「個人業績申請書」の様式を変更し、メンターとしての活動も教員評価の項目に加えることとしました。

令和2年度に設置した学修支援センターにおいては、令和4年度も1年次生を対象としたセミナーの実施を行うとともに、ピアサポート制度を実施し、先輩学生が後輩学生を指導することで学修や大学生活の不安を解消するための一助となっています。

③ 研究の充実

全学的な研究推進体制の下で、保健医療学部においては、統合医療及び予防医学に関する研究並びに基礎医学分野の科学研究を実施し、「理学療法学」に関する研究内容の充実を図りま

した。「柔道整復学」及び「鍼灸学」については、エビデンスを構築し、附属治療院の充実を図り、特色ある研究の推進に努めました。また、令和3年度から、新たに柔道整復・鍼灸治療院の電子カルテ化、受領委任払い制度における電子化に関する対応方法を新たに開発するべく、全国柔整鍼灸協同組合と共同してプロジェクトを立ち上げ、継続して電子カルテ導入に関する協議を行いました。当該プロジェクトにおいては、電子カルテ導入に関する情報収集を行うとともに、産学が連携して新しい提案を行う事ができないか検討を重ねました。

さらに、学内において研究成果発表会を定期的実施するとともに、宝塚医療大学紀要第8号を発行しました。また、「科学研究費補助金」等の公的研究費を獲得することを研究者個々の使命として位置づけて研究推進を図るとともに、研究推進委員会においてブラッシュアップを図りました。

学長裁量経費の新たな活用として、科学研究費助成事業に不採択であった研究を対象に、学内で選考を行い、大学として研究を支援する取組を行い、令和4年度は3名の教員に対して研究費の助成を行いました。

和歌山保健医療学部では、地域でのリハビリテーション関連専門職の教育、研究を行うために、和歌山県立医科大学医学部と「高度リハビリテーション医療・医学教育・研究講座」を設置しました。具体的な活動について、今後更に協議を進めます。新たに設置した看護学科においては、西庄キャンパスに研究室棟を整備するなど、設置計画に基づいた教育研究環境の整備を行いました。

④ 国家試験対策の充実

令和3年度の試験結果を踏まえ、各学科に設けた国家試験対策部会等において一層の教育内容の充実を図りました。具体的には、早期からの対策講義の継続的実施及び業者による模擬試験や姉妹校との合同模擬試験を計画的に実施し、試験結果の詳細な分析により、学生の弱点を把握し個々の学生の状況に合わせた綿密な指導を行い、学生の学習意欲の向上に努め国家試験合格率の向上を目指しました。これらの取組の結果、保健医療学部理学療法学科及び柔道整復学科では、令和4年度の新卒者の国家試験合格率が全国平均を上回りました。

また、国家試験に合格できなかった卒業生に対しては、国家試験対策を行う「宝塚塾」を中心に継続的な支援を行い、入学当初の目標を達成できるよう卒業後の国家試験対策の体制強化に努めました。理学療法学科においては、国家試験対策不合格者対応の担当者を選定し、1年間を通して既卒者の国家試験対策を支援することとしました。

⑤ 就職支援の充実

キャリア開発センターでは、医療人としての動機形成がなされるよう入学時に「大学生生活スタートアップマナー講座」を実施しています。また、継続して医療人としてふさわしい立ち居振る舞いができるよう、2年次には「実習前医療接遇マナー講座(基礎編)」、3年次には「実習前医療接遇マナー講座(実践編)」を行うなど、医療人として学生の自覚と成長を促しながら、社会に通用する宝塚医療大学のブランド力の向上に努めています。

また、キャリア開発センターが作成した「学生自身が記入するキャリアシート」を用いて、学生個々人の職業意識の向上を図り、有意義な学生生活を過ごせるよう入学時から教員による支援を行っています。この支援に並行して、1年次に適性検査を実施することで個々人の能力と適性を把握しています。この適性検査は、4年次への進級の際に全員がキャリア開発センター担当によるキャリア面談を実施する際にも、学生にとってより望ましい進路選択が支援できるようにしています。

さらにキャリア開発センターでは、求人情報の検索システムの構築や求人情報の閲覧、進路についての個別相談、(本学所定の)履歴書、エントリーシートの添削や書き方の支援、面接練習を希望する学生には模擬面接の実施など就職試験対策も行なっています。

また、就職情報提供の一環として本学独自の「学内就職説明会」（本年は対面とオンライン併用での開催）を理学療法学科、柔道整復学科、鍼灸学科で開催しています。病院、クリニック、トレーニングジム、介護福祉施設、治療院等の医療人や人事担当者、経営者を招いて本学の学生と面談できる機会を設けています。柔道整復学科及び鍼灸学科では7月に「学内就職説明会」（30施設の参加）を実施し、理学療法学科では9月に4日間にわたり、「オンライン就職説明会」（108施設の参加）を実施しました。また、理学療法学科では長期臨床実習前の春期に、「公立の医療施設の就職説明会」を個別に実施し、就職先のレベルアップと多様化を図っています。

さらに長期臨床実習前の4年生に向け、卒業生有志による「オンライン先輩訪問」と称した懇談会を実施しました。卒業生は、臨床での現体験や自身の臨床実習、国家試験勉強法や、就職活動などの体験を語り、最終学年を迎えた学生が臨床実習への心構え、国家試験勉強の方法、進路選択や就職活動の参考になるよう自覚を促す取組を行っています。柔道整復学科及び鍼灸学科では、令和元年度より2年間実施した「本学卒業生との懇談会」は感染症対策を講じながら再開、39施設で個人参加含め62名の卒業生に来学していただきました。

このようなキャリア支援への取組全般に対して、各学科から任命されたキャリア開発センター学生委員（4年生）が学内就職説明会開催や運営のサポートなど、上記業務のサポートを行いながら、就業意欲を全学生に波及させるという役割も担っています。

⑥ 社会貢献の充実

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和3年度に続き兵庫県川西市との包括的な連携協定に基づくスポーツ大会へのボランティア派遣が中止となりました。地域自治会の講習会、地域住民を対象とした健康増進や生活習慣病対策など、医療系大学の特色を活かした公開講座については、令和4年度より再開することができ、宝塚、和歌山の両キャンパスとも多くの方が参加しました。

高大連携事業の一環として、川西明峰高校3年生を対象とした「生涯スポーツ」の授業（全16回）を本学にて実施しました。一時期、回数を減らすなど規模を縮小していましたが、コロナ禍以前の形で講義を行うことができました。

附属治療院においては、近隣住民の健康治療に貢献するとともに附属介護ステーションでは、機能訓練に特化した地域密着型通所介護事業を行い、地域福祉に貢献しました。また、附属保育園では、企業主導型保育園として、地域の待機児童の減少に貢献しています。これら附属施設においては、感染対策を充分に行った上で、事業の継続に重点をおいて運営を行いました。

また、楽天ヴィッセル神戸株式会社との提携に基づくサッカーのクラブチームである「ヴィッセル神戸伊丹U-15」の本学グラウンドでの夜間練習については安全に配慮しながら適宜実施しました。令和4年度は1年を通して安全に配慮しながら段階的に大学施設の解放を行いました。

和歌山保健医療学部では、継続して旧中之島保育園の利活用について、和歌山市、近隣自治会と協議を重ね中之島キャンパスにおいてワークショップを実施しました。また、看護学科の設置に伴い、新たな社会貢献について和歌山市と継続して協議をしました。また、学友会が中心となり、地域の商店街開発プロジェクトや地域の清掃活動にも積極的に参加を行いました。

新たな試みとして、赤十字センターによる集団献血活動を、宝塚キャンパスで2回、和歌山キャンパスで1回（骨髄バンク登録を含む）実施し、多くの学生が参加しました。今後も年間2～3回の頻度で継続的に行う予定としています。

⑦ 企業主導型保育園の運営

平成29年度に開設した企業主導型保育園の運営に関して、令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染の拡大に伴う影響がありましたが、令和4年度は継続的に一週当たり135名程度の利用があり、コロナ禍以前の水準を超えることができました。新型コロナウイルス感染症が緩和してきたことにより、園内行事を各クラスから全園児での取組に戻していき、

保護者参加行事の再開なども検討しています。

社会的な緊張が高まっていた中で、地域の待機児童問題の解決の一助としての附属保育園が一定の機能を果たせたと考えます。

⑧ 宝塚医療大学附属介護ステーションの運営

令和4年度においては令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う利用者への感染防止を第一義に、附属介護ステーションの運営に努めました。

大阪市の指示に従い、高齢者である利用者及び同居家族等の日常的に接する方には、感染リスクが高い場所への外出や移動の自粛をお願いしました。また、利用者に少しでも症状がある場合は、早めの医療機関の受診や検査をお願いしながら運営しました。

そのため、利用者を対象とした外出や食事を伴うイベントは自粛しましたが、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が発出された中でも利用者のご要望に沿うべく、また、重点措置終了後も満足の行くサービスの提供を心がけ、消毒・換気・手洗い・うがい等を徹底し感染防止に努めながらも地道に運営を続けました。

なお、このようなコロナ禍の状況ではありましたが、令和3年度と同様に年に3回程度、姉妹校の臨床実習生の受入れなど教育分野での協力も行い、大学附属施設としての機能を果たしています。

⑨ 和歌山保健医療学部について

新学部設置に伴う履行状況等調査について、令和4年5月に報告書を文部科学省に提出し、令和5年3月に文部科学省のホームページで履行状況等調査の結果について公表され、本学は、特に指摘事項は付されませんでした。

また、和歌山保健医療学部では、令和3年3月に申請した看護学科の設置について、令和3年10月に文部科学大臣からの認可を受け、令和4年4月から第1期生の受入れを行いました。

いずれの学科においても、適切に設置計画を履行する計画です。

⑩ 留学生別科・介護福祉別科について

留学生別科については、令和2年度から大阪豊崎キャンパスで学生を受け入れ、東京キャンパスでは令和3年度からの学生受入れを始めました。2つの拠点での学生確保を行うため、外部のエージェント等を活用しながら活動を行いました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う入国制限があり、令和2年度、3年度は合格後も入国できない状況が続きましたが、令和4年度は水際対策の緩和もあったことから、入学希望の学生はほぼ入国することが可能となりました。ただし地域や条件によっては入国手続きに時間を要するケースもあったため、入学時期については、柔軟に対応できるよう配慮することとしています。

介護福祉別科については、令和4年度は36名が入学し、また第1期生21名（令和3年3月課程修了）第2期生25名（令和4年3月課程修了）は現在福祉施設の現場で活躍をしています。

⑪ 新学部・新学科の設置計画について

計画を進めていた観光学部観光学科（仮称）の新学部については、宮古島市との連携について、協議を進め、地元への説明会を実施するなど、市との連携に基づく新学部等の設置に向けて協議を進め、令和4年3月に設置認可申請書を提出しましたが、学生寮の建築に要する期間などの問題があり、申請の取り下げを行いました。令和5年3月に、改めて設置認可申請書を提出しました。

保健医療学部口腔保健学科については令和4年3月に文部科学省に学則変更に関する申請書を提出しました。令和4年4月及び5月に、設置届出及び養成校指定規則に基づく申請書をそれ

ぞれ提出しました。令和4年10月に認可を受け、令和5年度からは1期生の受入れを行っています。

⑫ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和元年に策定した中期目標の3年目に当たる令和4年度は、「使命・目的等」、「学生」、「教育課程」、「教員・職員」、「内部質保証」の各項目について計画実施に向けた準備を行う予定でした。新学科の設置計画の推進などがあり、各種ポリシーについては、新学科の設置計画に合わせて検討しました。一方で一部の計画については未着手の項目があります。

新規事業の実施などに伴い、適宜見直しを行います。

⑬ 施設設備の整備

令和4年度は、令和5年度から和歌山保健医療学部看護学科が運用する西庄キャンパスに教育研究用機器備品、図書等の納入を行いました。

宝塚キャンパスでは、キャンパス内の直管型蛍光灯の完全LED化や、キャンパス内へのベンチ設置など、環境整備を行いました。

⑭ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

全国柔整鍼灸協同組合とは、令和3年度から、柔道整復、鍼灸の治療院における電子カルテ、受領委任払い制度の電子化への対応に関する対応方法を新たに開発するべく、共同してプロジェクトを立ち上げました。令和4年10月より治療院にて電子カルテシステムの運用化を行い、全国柔整鍼灸協同組合及び関連企業を含め、今後産学連携の協定の締結を計画しています。

また、社会福祉士養成課程のスクーリング会場として全国柔整鍼灸協同組合の施設を使用しました。

⑮ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行いながら継続した教育を提供しました。コロナ禍がやや落ち着き出したことから、対面授業を中心に講義・実技授業を実施しましたが、一部の科目は継続してオンラインでの授業を実施しました。令和2年度に作成した感染予防に関するマニュアルに準じて、学生・教職員の検温、体調管理を徹底するとともに、罹患した場合の対応についても重ねて周知を行いました。

保健医療学部の各学科の臨床実習に関しては、実習の実施が困難な状況もありましたが、各実習施設の協力を得ながら可能な限り学外での臨床実習の機会を確保するよう努め、学生の単位修得、卒業判定に影響が出ないよう配慮しました。

附属図書館、食堂においては、密集状態にならないよう、席を間引くほか、パーティションの設置を行うなどの対策を継続して行いました。また、学生・教職員の罹患率については、速やかに学内で情報を共有するとともに、保健所等の指導に従い適切な対応を行いました。

(2) 平成医療学園専門学校

① 入学者の確保

医療専門課程については、その入学定員充足に向け、本校の主な入学対象者となる大阪・兵庫・京都エリアの高等学校への訪問を強化し、進路指導担当教諭・各クラブ顧問への認知向上に努めました。校内ガイダンスや会場ガイダンスへの積極的な参加も試み、高校3年生だけでなく、次年度以降を意識して高校2年生や1年生への接触を増やすことにも努めました。

オープンキャンパスについては、引き続きコロナ禍ではありましたが、令和3年度に比べて参加者は14.8%増加しました。来校からの歩留まりを上げるため、開催後には教職員で反省会を行い、内容改善に努め、出願率向上を図りました。社会人に対しては、柔道整復師や鍼灸師

の業界に関することや、学費や奨学金といったそれぞれの内容に特化したイベントを定期的に開催し、来校の間口を広げました。

ホームページやパンフレットなどの制作物については、イメージの統一のためにリニューアルを行いました。特にホームページについては、担当業者と定期的に打合せを行い、離脱率軽減のために状況に応じて変更を行いました。

日本語学科では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として実施された水際対策の影響を受け、令和4年度においても海外での広報活動及び対面面接ができない状況でした。そのような中でも、ベトナムやネパールといった国から多数の問い合わせがあり、WEB面接にて選考を行いました。在留資格の交付率は、100%には届きませんでしたが、高い交付率を維持することができました。日本語学科の定員については、令和5年度10月期生にて充足できる見込みです。一方、応用日本語学科は、コロナ禍の影響で引き続き日本国内における日本語学校の卒業者が激減しており、厳しい結果となりました。

② 教育の充実

令和4年度は新型コロナウイルス感染症によるまん延防止等重点措置が解除されましたが、学内では十分な感染対策を取り、対面授業を行いました。学生指導については、本校の理念である『徳義の涵養と人間性尊厳の実践』を教職員各自が十分に理解した上で行いました。新入生には初年次教育にて、業界の歴史の他、医療人として必要な道徳心や高貴な医療人としての精神について説明を行いました。令和4年度から時間割も変更となり、1年生から3限目を設けました。その3限目には演習科目を入れ、分からない所をそのままにすることなく、その場で解決し、知識の定着を図りました。その甲斐あってか、令和4年度における柔道整復師科1年生の原級留置者はいませんでした。2年生は臨床実習として治療所見学実習を実施し、学校で学んだ疾患の知識を臨床と結びつけることができました。また、患者さんと触れ合うことで、既往歴や周囲の環境、家族との関わりなど、幅広い視野で総合的に観察する重要性を学ぶことができました。その学びが学生の更なる学習意欲の向上に繋がったと考えます。3年生は成績不良者に対して早期より保護者面談を行い、夏休み前から補習や個別学習を取り入れ学力向上に努めました。

国家試験については、鍼灸師科の新卒者の合格率は、はり師95.5%、きゅう師95.5%でしたが、柔道整復師科は新卒者で50.0%と過去、最も悪い結果となりました。この結果については科内で猛省し、捲土重来の意気込みを持って次回の国家試験で全ての学生が合格できるようにサポート体制を高めます。

ゼミについては、学生の中にトレーナー志望者が多いことから、元ガンバ大阪や元オリックスブルーウェーブ（阪急ブレーブス）トレーナーによるゼミを開催しました。また、美容分野に興味を示す学生も多いことから、エステサロンでニーズが多い東洋医学をベースとした美容鍼灸や、美容手技、アロマなどのゼミも開催しました。また、柔道整復師と鍼灸師のダブルライセンス取得を目指す学生もいることから、鍼灸施術を併設する柔道整復施術所（いわゆる鍼灸接骨院）で必要となる運動器疾患や疼痛を改善させるための柔道整復手技以外の鍼灸技術力向上のために、柔道整復師と鍼灸師の資格を有する教員の授業を臨床実技として実施しました。

柔道整復師科においては、令和3年度に超音波画像観察装置の増設を行い、全ての学生が超音波画像観察装置に触れる授業をスタートしました。令和4年度は他校に類を見ない台数の超音波画像観察装置を使用し、全ての学生が卒業までにその装置を使いこなせることも目標とした教育へシフトチェンジしました。また、スポーツの現場実習においても学生自ら超音波画像観察装置を使用することのできる機会を設け、将来を見据えて実践を積みました。

海外研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、海外情勢を覗いつつ、提携先の大学（ベトナム・ホーチミン、台湾・台中）やプロサッカークラブ（スペイン・バルセロナ）、医療及びスポーツ施設（アメリカ・ロサンゼルス）などと連絡を密に取

り、研修の再開を目指します。まずは、台中の研修を令和5年度に実施するために中国医薬大学と交渉を年末（令和4年12月）から再開しました。

③ 国家試験対策の充実

令和4年度の国家試験の結果は、鍼灸師科新卒者の合格率が、はり師95.5%、きゅう師95.5%でした。一方、柔道整復師科の新卒者は50.0%と開校以来、最も悪い結果となりました。過去問を解き、分からない部分を洗い出し、その部分を重点的に復習して身につけさせ、それを試験で発揮できるようにするための指導が十分ではなかったことが要因の一つと考えます。早急に今回の結果を分析し、国家試験対策の見直しを行います。

家庭との連携については、3年次の早期より成績不良者に対して保護者面談を実施し、学校だけでなく家庭での学習状況を聴取し、必要な環境の改善を指導しました。今後も早期より保護者面談を実施し、家庭とも連携して教育を進めていきます。

従来から行われているグループ校合同模擬試験は年4回実施し、国家試験合格を最終目標として学習到達度をその都度測り、校内実力テストにより個々の得意不得意科目を分析し、教育内容にフィードバックしています。基礎医学の習熟度を高めるため、1、2年次でも模擬試験を実施し、現状の学習到達度を確認し、学生自らが学ぶ意欲を持てるように指導しながら、国家試験の意識付けを行います。合同模擬試験後には担任を中心に国家試験対策委員会合同模擬試験委員、実技委員会などを開催し、効率的で効果的な国家試験対策の検討を行います。また、国家試験浪人生のために従来から開講している予備校「平成塾」については、予備校生を3年生の国家試験対策科目に聴講生として受講させ、在校生とともに指導するハイブリッド型として実施します。浪人生のみならず、在校生に対しても競争意識を高める効果を見込むことができ、これらの施策により全員の国家試験合格を目指します。

④ 就職支援の充実

医療専門課程では、キャリアサポート室にて各企業からの求人票を受け付け、それを教職員へ共有して精査しています。更に、3年生においては、全学生の進路面談を実施し、学生個々の進路状況を把握・分析して、学生と求人元のミスマッチが起らないよう、細やかなサポートに努めました。

日頃から積極的に学生とコミュニケーションを取ることでやりたいことを叶えるだけでなく、働くことや就活に関する不安や焦りに寄り添えるような支援体制を構築しています。

企業説明会等については、外部の業界就職支援事業を学生へ案内するだけでなく、学内での合同企業説明会を開催しました。外部の説明会では出会う機会の少ない個人院や小規模院も招くことで、企業規模に偏った就職活動支援にならないよう調整しました。また、学内の企業説明会では各企業の施術を体験できる形態にすることで、企業の技術力が学生の志望動機に繋がるよう工夫しました。説明会の参加対象者については全学年を対象とし、早期就職活動の意識付けや、在学中のアルバイト勤務を促進しました。

文化・教養専門課程の卒業生は基本的には進学を目指すこととしているため、特別な就職支援は行っていません。

⑤ 日本語学科の充実

令和4年度は、自宅待機期間が長かったこともあり、例年に比べ極端に日本語力の低い学生が多く入学しました。通常授業が始まるまでに、導入の期間を設け、文字（ひらがな・カタカナ）や基本語彙の習得を図りました。

⑥ 応用日本語学科の充実

インプットばかりではなく、アウトプットを意識して、授業中に学生が日本語で多く話すこ

とができるよう工夫しました。令和4年度は卒業制作の発表会を外部の施設で行い、例年より学生が積極的に取り組んでいました。

⑦ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

学生ポータルサイトとして運用しているMicrosoft Teamsについては、その機能を利用して授業アンケートの取得と集計にも利用しました。紙でのアンケートよりも学生が手軽に回答することができ、集計作業を効率化することができました。また、就職サポートにおいても学生の就職活動状況を把握するためのツールとして利用しました。これにより、学生個々の状況に応じたサポートを行うことができ、就職支援の充実に繋がりました。

学外での活動については、ボランティア活動兼トレーナー現場実習として、大学のトライアスロン全国大会における救護活動を学生と教員が行いました。

⑧ 施設設備の整備

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があり、更には年度末に第2校舎の移転を予定していたことから、施設設備の整備は第1校舎を優先して進めました。具体的には、パソコン教室に設置している学生用ノートパソコンのOSサービス終了に伴う最新機器への入替や、教員室に設置している輪転機の不具合に伴う入替を行い、教育環境や業務環境の維持や充実を図りました。その他、第1校舎・第2校舎ともに特定建築物定期調査を実施しました。

⑨ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

本校の設立母体である全国柔整鍼灸協同組合は、設立40年の歴史ある厚生労働省認可団体であり、柔道整復・あん摩マッサージ指圧・はりきゅう業界のサポートを行っている業界団体です。全国柔整鍼灸協同組合とは本校設立当初より、学术交流やボランティア活動など様々な形で連携を取ってきました。全国柔整鍼灸協同組合の関連団体である大阪府鍼灸マッサージ協同組合とも連携し、柔道整復療養費、はり・きゅう療養費の取り扱いに関する授業を毎年度実施しています。令和4年度も両団体から講師を招き、コロナ禍以前と同様に、療養費の正しい理解と不正請求の実態、施術管理者の要件等についての授業を行いました。令和3年度から引き続き、全国柔整鍼灸協同組合のネットラジオにも教員が出演し、本校の教育や学生生活等を社会に発信しました。

両団体の会員施術所における臨床実習については、コロナ禍ではありましたが、感染対策に留意しながら実施することができました。

⑩ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和2年度から継続して基本的な感染対策として、換気やマスク着用、手指消毒を徹底し、学生の登校時の検温や健康チェックも義務付けていました。『新型コロナウイルス感染症対応マニュアル』を基に、学生への指導や感染症対策を実施し、学内における集団感染の防止に努めました。これにより、非常勤講師が本務規程により本校への出勤を制限される場合を除き、全ての授業を対面で実施することができました。

感染者や濃厚接触者に特定された学生に対しては、学習する機会を担保するために、医療専門課程においては、座学では対面授業を動画撮影し、配信することで教育の遅れを防止し、実技授業においては、後日登校した際に補習を行いました。文化・教養専門課程では、日本語による読み書きや対話を中心とする学習であるため、自宅学習として読み書きの筆記の課題を設定しました。対話については後日補習を行いました。

(3) 横浜医療専門学校

① 入学者の確保

中期計画に則り、「広報戦略」を策定し令和5年度の入学者目標を明確に定め、広報活動を実施しました。

高校生については神奈川県内の高等学校への訪問活動を重ね、高等学校との信頼関係の構築を図りました。また、業者や高等学校が実施するガイダンスに積極的に参加し、直接高校生と接触し、他校との違いを明確に説明することによって本校のイベントへの参加に繋げることができました。

社会人については特に本学卒業生が開業、勤務している治療院と、就職相談会に参加実績のある接骨院、治療院への訪問を重点的に実施し、先生方との関係性の強化を図りつつ、紹介により入学者を確保しました。また、社会人に特化した「夜間学校説明会」に加え「夜間授業見学会」を新たに追加実施しました。

オープンキャンパスでは、本校の特徴をいかし、実践に即した実技が体験できる参加者体験型授業や、学生スタッフとオープンキャンパス参加者がコミュニケーションを取ることができ時間を十分にとり、満足度の高い学校説明会を実施するとともに、施術現場の雰囲気イメージできる体験を通して、参加者の出願率向上を図りました。

また、本学教員による参加者体験型授業の他にも現役トレーナー・治療院開業者の卒業生を講師として招くなど、多岐にわたる内容で参加者のリピーター率を高めました。

ホームページとパンフレットについては「YOKOHAMA」という地域性をいかし、明るく洗練されたイメージを前面に出したイメージ構築を図りました。また各媒体業者に出稿する原稿も、ホームページ、パンフレットと整合性のあるデザインで統一し、高校生や社会人に受け入れられやすいイメージ戦略を推進しました。

② 教育の充実

令和4年度は、コロナ禍も落ち着きを取り戻してきたこともあり、感染対策を継続しつつも完全に対面授業にて実施しました。

ただし、今後も突然の感染増加に備え「統合教育・総合科目」の時間を利用し、オンライン授業にも対応できるように備えも怠らず整えていました。

1年生には年度始めの2週間を使い「初学者教育」を行いました。

ここでは、学生が必ず最初に苦戦する医学用語や、解剖学、生理学に触れ、各科目のハードルを下げることで、通常授業に入りやすい環境作りを行いました。

また令和3年度同様「学年担当制」を継続し、退学防止に努めていました。

しかしながら、年度末になるにつれ退学者が続出し、食い止めることができませんでした。

コロナ禍に入学した学生ということもあり、基礎医学をオンライン授業で受けた学生の基礎力の低下、通常授業に戻した時のギャップなどで適応できなかった学生が退学する傾向にあったのが原因ではないかと分析し、令和5年度には改善を図ります。

令和3年度から再開できたゼミナールは、令和4年度でも臨床系のコンテンツを中心に実施することができました。

令和5年度は、現場で即戦力として活躍できる内容のゼミナールを充実させていきます。

横浜医療専門学校研究会雑誌の第2号の発刊も行いました。

教員の論文はもちろんのこと、令和3年度10台常設した超音波画像診断装置を使用し、学生が作成した研究レポートの中から、優秀なレポートを選出し雑誌に投稿しました。海外基礎医学研修の解剖実習が実施できなかったため、1年次・2年次にて解剖見学実習を実施し、机上の勉強以外にご献体で解剖学を学びました。

③ 国家試験対策の充実

令和4年度の国家試験結果を詳細に分析し、戦略の見直しを実施します。

柔道整復師科、鍼灸師科の両学科においては、「学年担当制」での3年生担当が中心に最新情

報の収集や予想問題の作成など、出題基準の変化に対応できる取組を進めています。また、グループ校で実施する「合同模試」の個々の生徒の結果を分析し弱点を明確化させ点数アップに導けるようにサポートしていきます。

既卒受験生に対しては基礎から応用まで国家試験合格に必要な知識を幅広く学び直す機会として「聴講制度」設け、授業の参加や「合同模試」の受験など手厚くサポートしています。

さらに、近年ますます難化傾向の国家試験を踏まえ、1、2年生から四択問題を解き、解説を受けるなど、国家試験に対する取組を強化しています。

また、定期考査（期末試験）の在り方とその難易度について、常勤教員のみならず非常勤教員も含めた検討を実施しています。

常に教育用教材を見直すとともに、国家試験対策コンテンツとしての活用と充実を図っています。

④ 就職支援の充実

令和4年度は、早期の就職相談会開催に向け、4月中に全学年に対して就職相談会に関するアンケートを行い、学生の傾向などを加味して招致企業を選択しました。その結果、前年度は11月が初回でしたが、8月末に開催することができました。全学年を対象に、午前と午後の2部に分け、40社を招致し、対面で開催しました。開催前には委員によるマナー講座も開催しました。

就職相談会開催後は学生・企業ともにアンケートを行い、就職率向上と卒業後の進路状況の把握が可能な仕組みを構築しました。その結果をもとに、地域に根差した企業を中心に10社を招致し、11月に第2回就職相談会を開催しました。

学生からの就職に関しての個別相談件数も増えてきたので、きめ細やかな面談を重ね、その学生に合った企業への紹介ができました。

全体の就職率はアンケートでは約85%となり、そのうち就職相談会でのマッチング率は19%でした。

⑤ 日本語学科の充実

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、留学生が入国できない状況が続いていましたが、令和4年度は以前からの入国待機中だった学生を含め、4月期生11名、同年10月期生17名を迎え入れることができました。

留学生の学生指導については生活指導、学習指導について目標を設け、生活指導においては留学生寮やシェアハウスの整備、生活環境やアルバイト先への定期的な訪問指導を実施しました。また学習指導においては出席管理の徹底と日本語能力試験（JLPT）の合格目標の明確化と合格に向けての指導に注力しました。その結果、全留学生の平均出席率が99.56%となり、入国後半年以内でJLPT3級に複数名合格させることができ、一定の成果を残すことができました。この他、日本語を「読む、書く、話す」といった基本的な学習に加え、日本の四季を知り、文化への理解を深めることを目的とし、称名寺・三笠記念館への遠足などを実施しました。

⑥ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

中期計画、事業計画に基づき、令和3年度に引き続き、研究論文を作成し、横浜医療専門学校研究会雑誌を発刊できました。

また退学者の減少を目的としてクラス担当による指導・相談・面談（全学生）等を行いました。しかし学力不振による退学や金銭的な理由により退学をする学生が一定数いました。

柔道整復師科・鍼灸師科ともに夜間部の定員数が満たさない時期が長年続いたので、令和4年度から定員数を60名から30名に削減しました。

感染状況の様子を窺いながら就職相談会を開催し、学生の就職率は85%になりました。

⑦ 施設設備の整備

施設設備の整備消防用設備点検の結果を受け、令和2年度に作成した中長期修繕計画に基づき、予算状況に応じた、スプリンクラー、自動火災報知機、ハロゲン化物消火設備等の順に優先順位を付けた上で、令和3年度に引き続き修繕・改修を実施しました。

また日本語学科の教員室を6階から2階に移動し、より身近で生活の相談や修学の支援を行えるよう環境を整備しました。本校の施設は平成4年4月竣工（築31年）ではありますが、上述の中長期修繕計画に基づき修繕を行っていくことで、資産価値の維持と安全の確保を行います。

⑧ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

毎年3年生に向けて全国柔整鍼灸協同組合と連携し、業界事情、臨床に必要な準備などの説明会を校内で実施しました。個人で独立開業することのリスクや団体に加盟することによるリスク管理の重要性についての説明を行っていただきました。

新型コロナウイルス感染症により学生を引率することができなかったが全国柔整鍼灸協同組合会員と協力して高校ラグビーのボランティア活動を実施しました。

⑨ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和3年度に策定した新型コロナウイルス感染症の対応マニュアルを適宜更新しながら、入校時のマスクの着用、検温、手指の消毒、靴裏の消毒を徹底しました。医療専門課程においては実習時に学生間の距離が近くならざるを得ないことから、教員から注意喚起を促すと同時に手洗いを徹底させました。換気についても業務用扇風機を複数台設置し、常時稼働させるなど細心の注意を払った上で実施しました。文化・教養専門課程についてはマスクの着用を嫌がる留学生が多く、日本語学科の教職員全員で都度、なぜマスクの着用が必用なのかを丁寧に説明し、注意を促すなど、集団感染が発生しないよう注力しました。

また感染者が発生した際の報告経路を明確にし、速やかな情報共有が図れる体制を構築しました。

(4) なにわ歯科衛生専門学校

① 入学者の確保

令和4年度は、大阪・兵庫など本校の主な在校生実績高校への訪問を、令和3年度の125校から209校に増やしました。オープンキャンパスでは、学校の雰囲気を感じる体験実習や在校生との交流、個別に対話する機会を持つことにより、参加者の満足度を高めることを重視しました。来校者についてはフェイスシールドやマスク、体験実習時は手袋を着用するなど感染対策に努めました。主な対象が高校生であることから、募集活動でのアプローチ（高校内ガイダンス・高校訪問）やSNS（LINE・Twitter・Instagram）を中心にスマートフォンやパソコンを活用した情報配信にも注力しました。また、WEB個別見学の充実も図りました。

AO入試を中心に入学生の早期確保を目標に準備を進め、その結果、令和5年度入学生の入学試験の競争倍率は、昼間部1.2倍、夜間部1.3倍となりました。昼間部は入学定員72名に対し志願者102名、夜間部は入学定員36名に対し志願者55名となり、最終的に昼間部84名（充足率116.6%）、夜間部42名（同116.6%）が入学しました。

② 教育の充実

令和4年度は、従来のカリキュラムのほか、学外研修や歯科医療関係の企業からの講義・講演、技術的な講習の機会を拡大することに努めました。新型コロナウイルス感染症の影響により、アメリカロサンゼルスでの海外研修を北海道研修に変更し、実施しました。

実技科目については昼間部・夜間部とも綿密な指導を行い、特に臨床実習前や卒業前の実技試験に力を入れて取り組みました。

さらに、歯科衛生士として高齢者や障がい者との接点も多いことから、福祉関係にも積極的に携わるようにしています。例年に倣って介護初任者研修やガイドヘルパーの講義を開講し、エイジレスセンターでの研修も行いました。

また、各担当が学生と接する時間を多く取り、精神面のケアや相談、学習のフォローを行うことにも努めました。

③ 国家試験対策の充実

国家試験については、校内および外部の模擬試験を年間13回実施し、指導に反映しています。例年に倣い、国家試験対策用のカリキュラム（総復習講義、国試対策補講）や外部の国家試験対策講座（夏季と国家試験前）も行うとともに、国家試験対策に特化した講義を取り入れました。また、過去の国家試験問題などを閲覧できるアプリも活用しました。

令和4年度の結果は、受験者105名中合格者92名で、合格率は87.6%となり、前回の令和3年度（95.7%）及び受験者全体の全国平均（93.0%）を下回りました。不合格者には、国家試験対策講座の聴講や模擬試験の実施などにより合格に向けた対策を行うこととしています。

④ 就職支援の充実

昼間部の学生は例年11月頃には就職希望先を決め、順次採用試験に向かうことから、そのための指導や相談を綿密に行いました。夜間部の学生は11月まで臨床実習があるため、それ以降に就職指導を行いました。卒業後の就職状況については、卒業生106名に対して求人件数は10倍以上となり、就職希望者はほぼ採用が決定しました。就職先は主に一般の歯科診療所となっています。就職時期が卒業式後に決定する学生が多くなっていることから、今後も、就職希望者全員が就職できるよう、学生一人ひとりに対するきめ細かい進路指導を行っていきます。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和4年度は、令和3年度同様に教育理念に基づき学校運営に注力し、新型コロナウイルス感染症対策として教育環境の整備を行いました。オンライン授業実施のためにZoomを活用し、それを使っての教育や従来から利用してきたWEB会議システムの更なる効果的且つ効率的な利用など、中期計画に掲げていた「情報システムのより効果的・効率的な運用」という目標を達成することができました。

社会貢献・地域貢献についてはこれまでの取組を見直し、今後は自己点検・評価を通して適宜修正を行います。

今後の中期計画については、運営会議などで本校の今後の課題を分析し、具体的な学校運営の目標を検討します。

⑥ 施設設備の整備

令和4年度については、全館にLED照明器具一式取替の工事を実施し、新型コロナウイルス感染症拡大防止用として、トイレに便座クリーナーの設置も行いました。

また、現状でまだ問題が見られる個所を点検した上で、順次見直す予定です。

⑦ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した。校内における感染予防対策としては教室・ロビーまたはエレベーター等の共用部分を毎日除菌し、室内換気を十分にするなどを行っています。学生のマスク着用や手指消毒、検温、健康管理シートへの記入を徹底して実施し教職員に感染者または濃厚接触者が出た場合は、保健所の指示に従い対応しています。

実技授業での感染症対策としては、マスクの着用と併せてフェイスシールド及びゴーグルの

装着も必須とし、手指消毒と実習設備や椅子、備品の消毒作業を行いながら実施しています。

医療法人美和会との連携により、教職員と全学生に対してワクチン接種を推奨し、3回目を接種している学生については、優先にして臨床実習を総合病院の実習先とし、その他の学生については一般歯科医院を中心に行うように調整しました。

(5) 名古屋平成看護医療専門学校

① 入学者の確保

令和4年度の学生募集活動に関しては、「学生募集委員会」を中心に広報職員と学科教員が一体となり学生募集活動に取り組みました。コロナ禍による影響もありましたが、感染対策には注意して来校型オープンキャンパスを実施し、学生スタッフの成長もあり、学生との対話により受験にいたるケースが増加しました。また、高校ガイダンスの参加を増やすことで、高校生に対して直接アプローチする広報を強化いたしました。結果、入学定員165名に対し147名の入学者を迎え入れることができました(入学定員充足率89.1%)。

② 教育の充実

令和2年度より、教育理念に掲げている「徳義の涵養」を実践する教育として、「感謝」(学修環境や健康に感謝する心を学ぶ)、「自他共栄」(人間関係の重要性を学ぶ)、「自律」(自ら学ぶ心を修得)を軸としたCM教育(cultivate morality)を各学科の教育内容に導入しています。

CM教育を通して、職場で必要とされる専門知識や技術、実践的なスキルを学ぶ授業を実施するとともに、学校行事をはじめ地域貢献やボランティア活動等により仕事のマナーやチームワークスキルを学生スタッフとして身につけることができる機会を提供しています。

令和4年度に関しては、スポーツ大会などの学校行事や、認知症カフェやマラソン大会へのサポートなどの地域貢献やボランティア活動について、新型コロナウイルス感染症予防対策を行ったうえで、可能な限り積極的に実施しました。また、オープンキャンパスに参加している学生スタッフを対象としたマナー講座を新たに実施することで、さらなる成長に向けた取り組みを開始しました。

③ 国家試験対策の充実

令和4年度の新卒者の国家試験受験者は、看護学科26名、理学療法学科6名、柔道整復学科6名、はり・きゅう学科21名(はり師、きゅう師)に対して、国家試験合格者は、看護学科18名、理学療法学科5名、柔道整復学科1名、はり・きゅう学科20名でした。はり・きゅう学科の合格率は95.2%と全国平均(はり師85.5%、きゅう師85.9%)を上回る結果でしたが、他の学科は全国平均よりも低い結果となりました。

看護学科については模擬試験と個別学習支援面談を実施、朝学習・補習学習の導入も行ったものの、模擬試験の十分な振り返りやクラス全体での取組に繋げることが難しく、よりきめ細かい個別支援が必要と分析しています。理学療法学科については受験者6名の内、1名が不合格となりましたが、グループワークや国家試験対策でのアウトプットを強化することで、全体的な底上げは対応できたので、グループワークでの調べ学習とアウトプットトレーニングによる知識の定着と拡大に取り組むとしています。受験者6名の内、5名が不合格となりました柔道整復学科については、各授業で実施した小テストのデータを効果的に活用できなかった反省から、学生自身が短期・中期・長期の目標設定を行うことで国家試験までのロードマップを作成し、自律的に学習できる対応を進めていきます。

④ 就職支援の充実

令和4年度については、看護学科27名、理学療法学科6名、柔道整復学科6名、はり・きゅう学科21名、アスレティックトレーナー学科15名の計75名の卒業生となりました。理学療法学科

と柔道整復学科では初めての卒業生となり、全学科で卒業生を送り出すこととなったため、令和3年度の卒業生よりも26名の増加となりました。

こうした状況を受けて、国家資格キャリアコンサルタントの資格取得者を2名配置し、就職支援専門スタッフによるキャリアサポート体制を整備しました。これまで各学科で実施している実習病院での見学会やインターンシップ、学内での合同企業説明会に加えて、全学科での就職支援専門スタッフによるキャリア面談を通して応募書類作成や面接対策等の対応をすることで、各学生の状況にあったキャリアサポートを実施しました。結果、「就職希望者に対する就職率」は88.3%、「関連分野への就職率」は100%となりました。

令和5年年度に向けては、各学科教員と就職支援専門スタッフによる全学科でのキャリアガイダンス実施、各学生の経験・強みを整理するための自己分析ワークシートの整備等、全体支援に関する体制整備に取り組んでいきます。

⑤ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和4年度は、コロナ禍による社会全体への影響が続くなか、様々な感染予防対策を講じつつ、「学校運営」「教育環境」「学生募集と受入れ」の3項目に関しては、年度目標を概ね達成することができました。地域住民との調整が長引くことで建設が遅れていた「柔道場」についても、本校建物内での建設に向けて準備を進め、県庁主管課への申請・届出も完了し、令和5年度当初には完成見込みとなっております。また、全学科で卒業生を送り出す状況を受けてのキャリアサポート体制の整備等、令和3年度からの喫緊の課題解決に向けた対応も進めることができました。

一方で、コロナ禍や水光熱費高騰、突発的な修繕等により、空調設備の大規模修繕等の施設・設備の整備には遅れが発生しています。学科によっては、現状の国家試験対策に関する見直し等、新たな課題に向けた対策も必要となっております。

⑥ 施設設備の整備

近隣住民との調整が長期化し建築図面の変更見直し等が発生したことにより、完成が令和4年度にずれ込んでいた柔道場については、本校建物内での建築に向けた対応を進め、県庁主管課への申請・届出も完了するとともに、建設工事も概ね完了し、令和5年度5月初旬には完成見込みとなっております。また、水光熱費の大幅な上昇に対処するため、全館照明を蛍光灯からLED照明に更新するなど、省エネ施設・設備への転換改修工事も実施しました。

一方で、実施が遅れている空調設備等の大規模修繕については、学科ごとの使用教室集約を進めつつ、各学科の教育活動等の進捗状況を考慮した上で、優先順位の高い校舎及び教室から整備を行うことを計画しています。

⑦ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

平成29年度の「柔道整復師学校養成施設指定規則」及び「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指定規則」の改正により、教育内容として関連企業との連携が求められています。

全国柔整鍼灸組合には柔道整復や鍼灸の保険取扱い業務に関する講習会や業界団体説明会などの開催を依頼し、本校としては全国柔整鍼灸協同組合の東海地区の拠点としての役割を担うことにより協力体制を強化し、業界団体を母体とする学校法人平成医療学園の強みを活かした産学連携事業を今後も進めていきます。

令和4年度については、令和3年度同様、全国柔整鍼灸協同組合の計らいで、新型コロナウイルス感染症に対する集団ワクチン接種の柔整鍼灸業界枠での接種キャンセル分を本校の教員または学生が接種できたので、ワクチン接種が条件である病院実習または外部実習でも無事に対応することができました。

⑧ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和3年度に引き続き、厚生労働省や愛知県のマニュアルに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、学生や教職員に感染者または濃厚接触者が出た場合は、保健所の指示に従い対応しています。

校内における感染予防対策としては、学生及び教職員に対して「5名以上のマスク会食等、食事時の周りへの配慮」「5名以内でのエレベーター利用」「手洗い・手指消毒・マスク着用の実施」「サーキュレーター等による施設内換気の積極的な実施」「検査キット・解熱鎮痛薬等の準備による自己検査に関する環境整備」の5項目について、毎日の全館放送にて呼びかけるなど徹底しています。

全学科が参加するスポーツ大会や地域の高齢者を対象とした認知症カフェ、そしてマラソン大会の救護ボランティアなどの人的交流が主となる活動についても、感染防止対策を行った上で実施をしました。

(6) 日本総合医療専門学校

① 入学者の確保

令和4年度31名の入学から微増の39名が入学しました。柔道整復学科（定員30名）は早期に充足見込みが立ち33名が受験し、31名が入学しました。鍼灸学科は10月から告知を開始し、9名の受験、8名の入学にとどまりました。定員充足を目標に社会人向けのweb広告など鍼灸学科新設を柱に認知活動に努め、資料請求者数と来校数は伸びたものの、10月以降の候補者を確保できませんでした。結果として、鍼灸学科10名入学にも届かず、全定員に対しての達成率は65%にとどまりました。

② 教育の充実

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じつつ教育の質の維持・向上に努めました。1年生においては新カリキュラムがスタートしました。新カリキュラムは、盤石な基礎と応用力を身に付けることを目的としています。また、社会環境の変化の中で柔道整復師として自立を促す教育を行うために、新科目として「職業教育」を加えました。令和4年度は、合同企業説明会において企業研究、専門家を招いたキャリア形成セミナーを実施しました。2年生及び3年生においては、より実践的な治療家育成のために学外臨床実習を導入しました。2年生では、治療現場の理解を深め社会人としての常識を身に付けることを目的とし、3年生においては、学内教育で得た知識・技術を実際の臨床場面での活用方法を理解することを目的として行いました。

全学年を対象に各学年の課題を踏まえた面談を定期的に行いました。学習課題点への助言を行うとともに、生活環境も把握し、個別性を重視した教育指導を行いました。

新規事業として課外でゼミナールを開講しました。ゼミナールは、教科書で学ぶことができない様々な分野の学習機会を提供し、学生の可能性を広げる目的で行いました。令和4年度は、スポーツトレーナー、アロマ・メディカルハーブ、トレーニングに関するゼミナールを開講しました。

また、令和4年度においても神奈川歯科大学において解剖実習見学を行いました。大学と新型コロナウイルス感染防止策を講じながら実施しました。医療に携わる者としての意識を深めることができました。令和5年度入学者を対象として入学前学習会を実施しました。医療系専門学校で学んでいくための基礎的な知識の習得に加え、入学前の不安を取り除き、学校生活をスムーズにスタートさせることを目的として行いました。

③ 国家試験対策の充実

令和4年度の新卒合格率は68.4%でした。令和3年度は74.2%でしたので、前年度を超えることができませんでした。(第31回柔道整復師国家試験新卒合格率全国平均は65.4%)

全員合格を目指し、平成グループ合同模試、校内模試、googleフォームを用いた演習問題の取組や個別面談を随時実施していました。令和4年度では、令和3年度の反省から年度当初より個別面談を通し学習習慣の定着を目指してきましたが、冬季になってもエンジンがかからない学生が一部いました。当該学生については、卒業できず、令和5年度卒業保留留年者として第32回の国家試験合格を目指しています。また、国家試験の漏洩問題が起こり、国家試験の難易度も当初想定していたものより高くなり、必修問題で落ちてしまう学生もいました。

令和5年度は、1年次より担任をしている教員が3年次も担任となり、学生1人1人に合わせた勉強・指導に努めます。令和5年度こそは、卒業保留留年生を含めて全員合格を目指し指導をします。

④ 就職支援の充実

卒業生における就職率は問題がないが、送った後のフォロー、いわゆる雇用のマッチングが本人の希望通りとなっているかを、今後は追っていけるように同窓会、校友会などを構築したいと考えています。以前より計画していた卒業後5年次プログラムの計画を今後策定し卒業指導に関する充実を図る予定です。

⑤ 鍼灸学科の設置計画について

令和4年度は、校舎の移転に加えて新たに鍼灸学科設置認可申請を提出し、令和5年3月27日付で認可されました。令和5年度から荒川校舎にて柔道整復学科と鍼灸学科の2学科体制となりました。

⑥ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

荒川区への「位置変更及び学則変更届」により、校舎の位置変更及び鍼灸学科の設置の申請が受理されました。東京都には、「柔道整復師養成施設の学則」、「校舎の各室の用途及び面積の変更承認申請」の承認と、「はり師きゅう師養成施設設置申請書」の認定により、校舎の移転と鍼灸学科新設が認可されました。

⑦ 施設設備の整備

令和5年度より校舎移転を計画していたため、三河島校舎においては最低限度のメンテナンスにとどめ、特別な施設設備の整備(扉の不具合、トイレの配管不具合、給湯器不具合)は実施しませんでした。移転先の荒川校舎については、東京キャンパス留学生別科の2号館の移行が令和5年4月以降にずれ込み、予定通り行えなかったため、教室内の整備、窓ガラスの破損修理、電子錠扉の修理等の修学に支障のある施設、設備ができていないため、早急に不具合の整備を実施します。

⑧ 全国柔整鍼灸協同組合との連携協力

本校の設立母体である全国柔整鍼灸協同組合への入会を促進し、入学希望者の紹介から卒業後の就職先までの連携関係を強める予定でしたが、連携ができず達成できませんでした。学校関係者評価委員会には、評価委員として学校運営に関し、貴重な意見をいただきました。また、在校生に対して、業界を取巻く環境について教授いただきました。

⑨ 新型コロナウイルス感染症対策について

令和4年度も令和3年度に引き続き感染拡大の防止対策として、マスクの着用及び手指消毒の徹底指導を行いました。登校時に体温計測及び健康観察を行い、併せて立哨指導も行い感染防

止に対する意識づけも行いました。また、感染発生時の連絡体制を確立し、迅速に情報共有を行い万全な体制で感染防止に取り組みました。

(7) 和歌山看護専門学校

① 教育の充実

本校の教育理念「生命の尊厳に基づき、社会の期待に対応し貢献できるよう、看護基礎教育と豊かな人間性を備え、誇りをもって看護を実践できる人材の育成をする。」に基づき、施設での実習においては特に新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、カリキュラムを遂行しました。

② 国家試験対策の充実

学内で作成した模擬試験と業者による模擬試験（2年生4回、3年生15回）を計画的に実施しました。外部講師による3年生を対象とした学習会の実施や、休日の学習の場の提供など各学生者の生活習慣に対応した学習環境を整えるとともに各科目担当による補習を行いました。その後、個別指導を継続し、高い国家試験合格率を維持することを目的とした国家試験対策を実施しました。

③ 就職支援の充実

本校は、開設時から和歌山県病院協会の会員病院に安定的に看護師を送り出すことを大きな目的としてきました。引き続き和歌山県内の病院等への就職を推進しました。病院奨学金を受給しない学生については、2年次から就職指導を開始し、病院等のパンフレットを自由に閲覧できるようにし、就職先の選択を行わせるとともに個別の相談にも応じてきました。3年次には、就職試験の願書の記載方法の指導など、具体的な就職に関する指導を行うとともに必要に応じて面接練習などを行いました。入学時から和歌山県内での就職の意識を持たせ、3年間の講義・実習を通して看護師としての資質を養うとともに、就職に関する意識を高めました。

④ 事業計画の進捗・達成状況

3年生は、コロナ禍ながらも34人中33人が国家試験に合格し、就職活動を精力的に行い、34人全員が就職を決定しました。そのうち、31人は県内病院に就職しています。新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、授業については感染対策に十分に配慮しながら対面授業を行い、実習については保育所及び保健所での実習ができなかったため、学内での実習に変更しました。

⑤ 施設設備の整備

既存の建物について、随時必要な改修等を行うとともに、教育用の機器・図書について適宜購入しました。

⑥ 新型コロナウイルス感染症対策について

行政の通知等に基づき、新型コロナウイルス感染症対策を学生に周知徹底し、校内における感染予防対策として、教室内でのソーシャルディスタンスの確保、サーキュレーターによる換気など3密環境の排除を徹底しました。また登校時の検温、手指の消毒、マスク着用、昼食時の黙食の励行、実技授業では、マスクや手袋を着用するなど感染対策に努めました。

(8) 法人本部

① 規程整備の推進

「宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科」の設置に係る届出を令和4年4月28日付で行い、

同届出が文部科学省のホームページに掲載されたので、令和4年7月11日に評議員会・理事会の議決を経て、同学科の設置に係る寄附行為変更を令和4年7月25日付で届出しました。

また、「宝塚医療大学観光学部観光学科」（仮称）設置に係る寄附行為変更認可申請書を令和5年3月31日付で文部科学大臣に申請し、同年6月末には追加書類を提出します。

なお、寄附行為変更に関連する、諸規程を順次見直し、実態と整合しない条文等を修正、整備を行い、規程を更新していくとともに、各学校の教職員にも周知しています。

② 情報公開の充実

令和2年4月1日施行の私立学校法の改正に則り、寄附行為の内容、監査報告書の内容、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、役員等名簿（個人の住所に係る記載の部分を除く。）、役員の報酬等の支給の基準等の情報を公開しています。

また令和4年度には、学園ホームページの情報公開ページの更新を、制作業者に依頼することなく法人本部で行える仕様に変更し、より迅速に情報公開を行えるようにしました。

③ 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

令和2年4月1日施行の私立学校法の改正に従い、令和2年度から6年度までの5年間の中期計画に基づき、令和4年度は、宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科を開設しました。また、宝塚医療大学尼崎保健医療学部口腔保健学科（仮称）の開設については、キャンパスを尼崎から宝塚キャンパスと大阪中津キャンパスに変更し、宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科として、令和5年4月に開設しました。

財政基盤のより安定化を図るために、日本総合医療専門学校の校地・校舎（三河島校舎）を売却して宝塚医療大学観光学部観光学科（仮称）の設置に係る設置経費の財源を確保しました。また、計画していました宝塚医療大学大阪保健医療学部（仮称）の開設準備、及び職業訓練法人東京都調理職業訓練協会「職業能力開発短期大学校日本調理アカデミー」設置の検討については延期しました。

ブランド力の強化を図るために、学校法人福寿会と令和5年4月に法人合併を行いました。また、宝塚医療大学観光学部観光学科（仮称）設置に係る寄附行為変更認可申請書を令和5年3月31日付で文部科学大臣に申請し、同年6月末には追加書類を提出します。

近年のコロナ禍や世界情勢の変化など本学園を取巻く環境の変化に伴う計画変更や、令和7年4月施行の私立学校法改正に対応した学校運営を行うために、令和5年度には、令和6年度から10年度までの5か年の中期計画を再構築することを予定しています。

④ 学校法人福寿会との法人合併について

本学園と学校法人福寿会（所在地:福島県郡山市）との間で、令和5年4月1日付の合併に向けて、令和4年3月31日に法人合併協定を締結し、具体的に合併方法を定めた法人合併契約を同学校法人との間で同年5月31日に締結しました。

法人合併に向けて、福島医療専門学校の所轄庁とする福島県知事から進達により文部科学大臣に学校法人の合併認可申請等の所要の手續等を行い、令和5年1月20日付で文部科学大臣から学校法人合併認可を受けました。

なお、この法人合併について、債権者からの異議はありませんでした。

⑤ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策として、理事会・評議員会、常任理事会、各校の運営者会議等の会議では、引き続き、遠方の出席者がリモートで参加できる環境を整えています。また、グループウェアを活用して学生・教職員の体調不良者の情報をリアルタイムで共有したり、対面授業と遠隔授業の両方を行うハイブリット授業を取り入れたりするなど、大学並びに各専門

学校の状況に応じた感染予防対策を講じて校内クラスターの発生を防いでいます。

法人本部では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、出勤時に必ず体温を計測して体調管理表に当日の体調を記入していましたが、新型コロナウイルス感染症が5類に変更されることを機に一旦中止し、入室時のアルコール消毒液で手指消毒の奨励については継続する予定です。

3 理事会・評議員会の開催状況

◆ 理事会

(令和4年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和4年5月27日	第1号議案：令和3年度事業報告書（案）について 第2号議案：令和3年度決算（案）について 第3号議案：理事の競業について 第4号議案：学校法人平成医療学園寄附行為変更認可申請書並びに宝塚医療大学観光学部設置認可申請の取下げについて 第5号議案：宝塚医療大学社会福祉士一般養成課程（通信）に関する規程の一部改正（案）について 第6号議案：宝塚医療大学社会福祉士短期養成課程（通信）に関する規程の一部改正（案）について 第7号議案：宝塚医療大学特別奨学生規程の一部改正（案）について 第8号議案：各学校の学生募集結果報告について（報告） 第9号議案：その他
令和4年5月27日	第1号議案：学校法人福寿会の長期借入金について 第2号議案：資金の短期貸付けについて ① 学校法人札幌青葉学園 ② 社会福祉法人山の子会 ③ 医療法人美和会 第3号議案：令和4年度第一次補正予算（案）について 第4号議案：学校法人平成医療学園中期計画の進捗・達成状況について 第5号議案：学校法人福寿会との法人合併について 第6号議案：宝塚医療大学学則の一部改正（案）について 第7号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について
令和4年6月28日	第1号議案：学校法人運営調査に係る指導・助言事項への改善状況報告について 第2号議案：その他
令和4年7月11日	第1号議案：学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について 第2号議案：寄付金の募集について 第3号議案：宝塚医療大学特別奨学生規程について（報告） 第4号議案：その他
令和4年9月5日	第1号議案：平成医療学園専門学校について ① 校地、校舎の変更について ② 入学定員変更（案）について 第2号議案：社会福祉法人山の子会との建物賃貸借契約について 第3号議案：オリエントメディカルサービス株式会社との貸室賃貸借契約について 第4号議案：その他
令和4年9月5日	第1号議案：学校法人福寿会との合併後の学校法人平成医療学園寄附行為について 第2号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について

令和4年11月29日	<p>第1号議案：令和5年度予算編成方針（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科設置に伴う規程の一部改正（案）について</p> <p>① 宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>② 宝塚医療大学特別奨学生規程の一部改正（案）について</p> <p>③ 宝塚医療大学成績優秀者給付奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学指定強化スポーツ授業料減免規程の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学入学金免除規程の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：宝塚医療大学社会福祉士一般養成課程（通信）に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第6号議案：日本総合医療専門学校2023年度鍼灸学科新設に伴う特待生奨学金制度について</p> <p>第7号議案：土地建物売買契約について</p> <p>第8号議案：名古屋平成看護医療専門学校柔道場建築の取りやめに伴う校舎の各室の用途及び面積の変更について</p> <p>第9号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第10号議案：その他</p>
令和4年11月29日	<p>第1号議案：名古屋平成看護医療専門学校柔道場建築等に係る長期借入金の取りやめについて</p> <p>第2号議案：抵当権設定契約について</p>
令和5年1月26日	<p>第1号議案：令和4年度第二次補正予算（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学宮古島キャンパス学生寮に係る各種契約について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学留学生別科の大阪難波キャンパス開設に係る定期建物賃貸借契約について</p> <p>第4号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第5号議案：その他</p>
令和5年2月21日	<p>第1号議案：宝塚医療大学観光学部観光学科（仮称）の設置に係る学校法人平成医療学園寄附行為変更（案）について</p> <p>第2号議案：観光学部観光学科（仮称）の設置に係る宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学ファミリー奨学金規程の廃止について</p> <p>第5号議案：宝塚医療大学指定強化スポーツ授業料減免規程の一部改正（案）について</p> <p>第6号議案：宝塚医療大学社会福祉士一般養成課程（通信）に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第7号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第8号議案：その他</p>

令和5年3月24日	<p>第1号議案：平成医療学園専門学校、横浜医療専門学校、なにわ歯科衛生専門学校、名古屋平成看護医療専門学校、日本総合医療専門学校、和歌山看護専門学校及び福島医療専門学校の校長の選任について</p> <p>第2号議案：役員の選任等について</p> <p>① 評議員の選任について</p> <p>② 理事の選任について</p> <p>第3号議案：学校法人平成医療学園組織規程の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：学校法人平成医療学園事務分掌規程の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：学校法人平成医療学園福島医療専門学校に関する諸規程の制定（案）について</p> <p>第6号議案：宝塚医療大学施設貸出規程の一部改正（案）について</p> <p>第7号議案：日本総合医療専門学校校地・校舎の売買契約について（報告）</p> <p>第8号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第9号議案：その他</p>
令和5年3月24日	<p>第1号議案：令和4年度第三次補正予算（案）について</p> <p>第2号議案：令和5年度事業計画（案）について</p> <p>第3号議案：令和5年度予算（案）について</p> <p>第4号議案：学校法人札幌青葉学園の長期借入金について</p> <p>第5号議案：評議員の選任について（報告）</p> <p>第6号議案：その他</p>

◆ 常任理事会

(令和4年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和4年4月18日	<p>第1号議案：学校法人平成医療学園寄附行為変更認可申請書並びに宝塚医療大学観光学部設置認可申請の取下げについて</p> <p>第2号議案：その他</p>
令和4年6月28日	<p>第1号議案：令和4年度顧問の報酬について</p> <p>第2号議案：その他</p>
令和4年10月13日	<p>第1号議案：土地建物売買契約について</p> <p>第2号議案：その他</p>
令和4年12月23日	<p>第1号議案：宝塚医療大学宮古島キャンパス学生寮に係る各種契約について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学留学生別科の大阪難波キャンパス開設に係る定期建物賃貸借契約について</p> <p>第3号議案：その他</p>

◆ 評議員会

(令和4年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和4年5月27日	第1号議案：令和3年度事業報告書（案）について 第2号議案：令和3年度決算（案）について 第3号議案：学校法人平成医療学園寄附行為変更認可申請書並びに宝塚医療大学観光学部設置認可申請の取下げについて 第4号議案：学校法人福寿会の長期借入金について 第5号議案：資金の短期貸付けについて ① 学校法人札幌青葉学園 ② 社会福祉法人山の子会 ③ 医療法人美和会 第6号議案：令和4年度第一次補正予算（案）について 第7号議案：学校法人平成医療学園中期計画の進捗・達成状況について 第8号議案：学校法人福寿会との法人合併について 第9号議案：宝塚医療大学学則の一部改正（案）について 第10号議案：日本総合医療専門学校学則の一部改正（案）について 第11号議案：宝塚医療大学社会福祉士一般養成課程（通信）に関する規程の一部改正（案）について 第12号議案：宝塚医療大学社会福祉士短期養成課程（通信）に関する規程の一部改正（案）について 第13号議案：宝塚医療大学特別奨学生規程の一部改正（案）について 第14号議案：各学校の学生募集結果報告について（報告） 第15号議案：その他
令和4年7月11日	第1号議案：学校法人平成医療学園寄附行為の変更（案）について 第2号議案：寄付金の募集について 第3号議案：宝塚医療大学特別奨学生規程について（報告） 第4号議案：その他
令和4年9月5日	第1号議案：平成医療学園専門学校について ① 校地、校舎の変更について ② 入学定員変更（案）について 第2号議案：社会福祉法人山の子会との建物賃貸借契約について 第3号議案：オリエントメディカルサービス株式会社との貸室賃貸借契約について 第4号議案：学校法人福寿会との合併後の学校法人平成医療学園寄附行為について 第5号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について 第6号議案：その他

令和4年11月29日	<p>第1号議案：令和5年度予算編成方針（案）について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科設置に伴う規程の一部改正（案）について</p> <p>① 宝塚医療大学における学生納付金に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>② 宝塚医療大学特別奨学生規程の一部改正（案）について</p> <p>③ 宝塚医療大学成績優秀者給付奨学金規程の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学指定強化スポーツ授業料減免規程の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：宝塚医療大学入学金免除規程の一部改正（案）について</p> <p>第5号議案：宝塚医療大学社会福祉士一般養成課程（通信）に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第6号議案：日本総合医療専門学校2023年度鍼灸学科新設に伴う特待生奨学金制度について</p> <p>第7号議案：土地建物売買契約について</p> <p>第8号議案：名古屋平成看護医療専門学校柔道場建築の取りやめに伴う校舎の各室の用途及び面積の変更について</p> <p>第9号議案：名古屋平成看護医療専門学校柔道場建築等に係る長期借入金の取りやめについて</p> <p>第10号議案：抵当権設定契約について</p> <p>第11号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第12号議案：その他</p>
令和5年1月26日	<p>第1号議案：令和4年度第二次補正予算（案）について</p>
令和5年1月26日	<p>第1号議案：宝塚医療大学宮古島キャンパス学生寮に係る各種契約について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学留学生別科の大阪難波キャンパス開設に係る定期建物賃貸借契約について</p> <p>第3号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第4号議案：その他</p>
令和5年2月21日	<p>第1号議案：宝塚医療大学観光学部観光学科（仮称）の設置に係る学校法人平成医療学園寄附行為変更（案）について</p> <p>第2号議案：観光学部観光学科（仮称）の設置に係る宝塚医療大学学則の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：平成医療学園専門学校学則の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：その他</p>
令和5年2月21日	<p>第1号議案：宝塚医療大学ファミリー奨学金規程の廃止について</p> <p>第2号議案：宝塚医療大学指定強化スポーツ授業料減免規程の一部改正（案）について</p> <p>第3号議案：宝塚医療大学社会福祉士一般養成課程（通信）に関する規程の一部改正（案）について</p> <p>第4号議案：各学校の学生募集状況について（報告）</p> <p>第5号議案：その他</p>

<p>令和5年3月24日</p>	<p>第1号議案：令和4年度第三次補正予算（案）について 第2号議案：令和5年度事業計画（案）について 第3号議案：令和5年度予算（案）について 第4号議案：学校法人札幌青葉学園の長期借入金について 第5号議案：平成医療学園専門学校、横浜医療専門学校、なにわ歯科衛生専門学校、名古屋平成看護医療専門学校、日本総合医療専門学校、和歌山看護専門学校及び福島医療専門学校の校長の選任について（報告） 第6号議案：役員の選任等について ① 評議員の選任について ② 評議員及び理事の選任について（報告） 第7号議案：学校法人平成医療学園組織規程の一部改正（案）について 第8号議案：学校法人平成医療学園事務分掌規程の一部改正（案）について 第9号議案：学校法人平成医療学園福島医療専門学校に関する諸規程の制定（案）について 第10号議案：宝塚医療大学施設貸出規程の一部改正（案）について 第11号議案：日本総合医療専門学校校地・校舎の売買契約について（報告） 第12号議案：各学校の学生募集状況について（報告） 第13号議案：その他</p>
------------------	--

4 学位又は称号

(1) 取得可能な学位又は称号

◆ 宝塚医療大学

学部	学科	学位
保健医療学部	理学療法学科	学士（保健医療学）
	柔道整復学科	学士（保健医療学）
	鍼灸学科	学士（保健医療学）
	口腔保健学科	学士（口腔保健学）
和歌山保健医療学部	リハビリテーション学科	学士（保健医療学）
	看護学科	学士（看護学）

（注）理学療法学科・柔道整復学科・鍼灸学科・口腔保健学科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。リハビリテーション学科作業療法学専攻・理学療法学専攻でも、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。看護学科では看護師国家試験受験資格を取得可能。

また、所定のカリキュラムを履修することにより、口腔保健学科及び看護学科を除く全学科で教員免許（中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育））を、理学療法学科・柔道整復学科・鍼灸学科ではアシスチック・トレーナー資格（JATAC-ATC）を取得可能。

◆ 平成医療学園専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復師科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸師科	専門士（医療専門課程）
	東洋療法教員養成学科	専門士（医療専門課程）
文化・教養専門課程	日本語学科 進学2年コース	専門士（文化・教養専門課程）
	応用日本語学科 2年コース	専門士（文化・教養専門課程）

（注）柔道整復師科・鍼灸師科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

また、所定のカリキュラムを履修することにより、医療専門課程全科において、AEAJアロマセラピーアドバイザー、日本スポーツ協会スポーツリーダー、及び日本障がい者スポーツ協会初級障害者スポーツ指導者の資格を取得可能とし、さらに柔道整復師科・鍼灸師科では、アシスチック・トレーナー（JATAC-ATC）の資格も取得可能。

東洋療法教員養成学科では、あん摩マッサージ指圧はりきゅう教員資格を取得可能。

◆ 横浜医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復師科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸師科	専門士（医療専門課程）

（注）柔道整復師科・鍼灸師科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	歯科衛生士学科	専門士（医療専門課程）

（注）歯科衛生士国家試験受験資格に加え、所定のカリキュラムを履修することにより、介護職員初任者研修、移動支援従業者（全身性障がい）、移動支援従業者（知的障がい）資格を取得可能。

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）
	理学療法学科	高度専門士（医療専門課程）
	柔道整復学科	専門士（医療専門課程）
	はり・きゅう学科	専門士（医療専門課程）
文化・教養専門課程	アスレティックトレーナー学科	専門士（文化・教養専門課程）

（注）看護学科・理学療法学科・柔道整復学科・はり・きゅう学科では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

アスレティックトレーナー学科では、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの受験資格を取得可能。

◆ 日本総合医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復学科 柔整スポーツ・ケアコース	専門士（医療専門課程）
	鍼灸学科 スポーツ・メディカルはり・きゅうコース	専門士（医療専門課程）

（注）それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

◆ 和歌山看護専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）

（注）国家試験受験資格を取得可能。

◆ 福島医療専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔整科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸科	専門士（医療専門課程）
	歯科衛生士科1・2部	専門士（医療専門課程）

（注）柔整科・鍼灸科・歯科衛生士科1・2部では、それぞれの国家試験受験資格を取得可能。

(2) 学位授与数及び授与率

◆ 宝塚医療大学

(令和4年度、単位：名)

学科	学位授与数	卒業学年在籍者数	学位授与率
理学療法学科	46	52	88.5%
柔道整復学科	49	56	87.5%
鍼灸学科	22	23	95.7%
合 計	117	131	89.3%

(注) 「卒業学年在籍者数」は令和4年5月1日現在。

5 学生生徒等納付金

◆ 宝塚医療大学

(令和5年度、単位：円)

理学療法学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	950,000	950,000	950,000	950,000
施設管理費	400,000	450,000	450,000	450,000
実習費	300,000	300,000	350,000	350,000
合 計	1,950,000	1,700,000	1,750,000	1,750,000
柔道整復学科・鍼灸学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	950,000	950,000	950,000	950,000
施設管理費	400,000	450,000	450,000	450,000
実習費	300,000	300,000	300,000	300,000
合 計	1,950,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
口腔保健学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	700,000	700,000	700,000	700,000
施設管理費	200,000	200,000	200,000	200,000
実習費	300,000	300,000	300,000	300,000
合 計	1,500,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
リハビリテーション学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	850,000	850,000	850,000	850,000
施設管理費	400,000	400,000	400,000	400,000
実習費	250,000	250,000	300,000	300,000
合 計	1,800,000	1,500,000	1,550,000	1,550,000
看護学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	300,000	—	—	—
授業料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
施設管理費	300,000	300,000	300,000	300,000
実習費	150,000	150,000	150,000	150,000
合 計	1,750,000	1,450,000	1,450,000	1,450,000

(注) 上記のほか、学友会費、後援会費、同窓会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

留学生別科 1年課程	1年次	—
入学金	120,000	—
授業料	620,000	—
合 計	740,000	—

留学生別科 1年6ヶ月課程	1年次	2年次
入学金	120,000	—
授業料	620,000	310,000
合 計	740,000	310,000
留学生別科 2年課程	1年次	2年次
入学金	120,000	—
授業料	620,000	620,000
合 計	740,000	620,000

介護福祉別科	1年次	2年次
入学金	200,000	—
授業料	850,000	850,000
施設管理費	0	0
実習費	0	0
合 計	1,050,000	850,000

社会福祉士養成課程 短期養成課程(9か月)	1年次
入学金	30,000
授業料	180,000
実習費	120,000
合 計	330,000
社会福祉士養成課程 一般養成課程(1年9か月)	1年次
入学金	30,000
授業料	270,000
実習費	120,000
合 計	420,000

(注) 実習費は、実習履修者のみ必要。

◆ 平成医療学園専門学校

(令和5年度、単位：円)

柔道整復師科・鍼灸師科	1年次	2年次	3年次
入学金	250,000	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000
施設管理費	240,000	240,000	240,000
教材費	200,000	200,000	200,000
合 計	1,560,000	1,310,000	1,310,000
東洋療法教員養成学科	1年次	2年次	—
入学金	250,000	—	—
授業料	600,000	600,000	—
施設管理費	200,000	200,000	—
教材費	200,000	200,000	—
合 計	1,250,000	1,000,000	—

日本語学科 日本語・医療福祉系1年コース	1年次	—	—
入学金	100,000	—	—
授業料	620,000	—	—
合 計	720,000	—	—
日本語学科 進学1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	310,000	620,000	—
合 計	410,000	620,000	—
日本語学科 進学2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	620,000	620,000	—
合 計	720,000	620,000	—
応用日本語学科 1年コース	1年次	—	—
入学金	100,000	—	—
授業料	670,000	—	—
合 計	770,000	—	—
応用日本語学科 2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	670,000	670,000	—
合 計	770,000	670,000	—

(注) 上記のほか、学友会費、教科書代、白衣代（医療専門課程のみ）等の諸経費が必要となります。

◆ 横浜医療専門学校

(令和5年度、単位：円)

柔道整復師科・鍼灸師科	1年次	2年次	3年次
入学金	240,000	—	—
授業料	840,000	840,000	840,000
施設管理費	240,000	240,000	240,000
実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,520,000	1,280,000	1,280,000
日本語学科 進学1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	325,000	650,000	—
合 計	425,000	650,000	—
日本語学科 進学2年コース	1年次	2年次	—
入学金	100,000	—	—
授業料	650,000	650,000	—
合 計	750,000	650,000	—

(注) 上記のほか、学友会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和5年度、単位：円)

歯科衛生士学科 昼間	1年次	2年次	3年次
入学金	100,000	—	—
授業料	640,000	640,000	640,000
実習料	200,000	200,000	200,000
教育充実費	100,000	100,000	100,000
合 計	1,040,000	940,000	940,000
歯科衛生士学科 夜間	1年次	2年次	3年次
入学金	50,000	—	—
授業料	590,000	590,000	590,000
実習料	200,000	200,000	200,000
教育充実費	80,000	80,000	80,000
合 計	920,000	870,000	870,000

(注) 上記のほか、同窓会費、教科書代、白衣代等の諸経費が必要となります。

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和5年度、単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	920,000	920,000	920,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	270,000	270,000	270,000	—
合 計	1,640,000	1,390,000	1,390,000	—
理学療法学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	920,000	920,000	920,000	920,000
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	200,000
実習費	230,000	230,000	230,000	230,000
合 計	1,600,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000
柔道整復学科・はり・きゅう学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	250,000	—	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000	—
施設・設備費	200,000	200,000	200,000	—
実習費	200,000	200,000	200,000	—
合 計	1,520,000	1,270,000	1,270,000	—
アスレティックトレーナー学科	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金	150,000	—	—	—
授業料	620,000	620,000	—	—
施設・設備費	150,000	150,000	—	—
実習費	250,000	290,000	—	—
合 計	1,170,000	1,060,000	—	—

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、学校行事・健康管理費等の諸経費が必要となります。

◆ 日本総合医療専門学校

(令和5年度、単位：円)

柔道整復学科・鍼灸学科	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	800,000	800,000	800,000
施設管理費	100,000	100,000	100,000
実技実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,300,000	1,100,000	1,100,000

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、在籍管理費等の諸経費が必要となります。

◆ 和歌山看護専門学校

(令和5年度、単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次
入学金	400,000	—	—
授業料	360,000	360,000	360,000
施設管理費	500,000	0	0
実技実習費※	180,000	180,000	180,000
合 計	1,440,000	540,000	540,000

(注) 上記のほか、テキスト・実習着・教材費、在籍管理費等の諸経費が必要となります。 ※令和4年度から募集停止。

◆ 福島医療専門学校

(令和5年度、単位：円)

柔整科・鍼灸科	1年次	2年次	3年次
入学金	300,000	—	—
授業料	870,000	870,000	870,000
施設管理費	120,000	120,000	120,000
実習費※	150,000	150,000	150,000
合 計	1,440,000	1,140,000	1,140,000
歯科衛生士科	1年次	2年次	3年次
入学金	300,000	—	—
授業料	450,000	450,000	450,000
施設管理費	120,000	120,000	120,000
実習費※	200,000	200,000	200,000
合 計	1,070,000	770,000	770,000
日本語学科 1.5年コース	1年次	2年次	—
入学金	50,000	—	—
授業料	260,000	520,000	—
教材費	50,000	50,000	—
施設管理費	50,000	50,000	—
学生活動費	30,000	30,000	—
学生災害保険	5,800	10,000	—

合 計	465,800	660,000	—
日本語学科 2年コース	1年次	2年次	—
入学金	50,000	—	—
授業料	520,000	520,000	—
教材費	50,000	50,000	
施設管理費	50,000	50,000	
学生活動費	30,000	30,000	
学生災害保険	10,000	10,000	
合 計	730,000	660,000	—

(注) 上記のほか、教材費、学友会費、教科書代・白衣代等の諸経費が必要となります。

6 卒業及び就職等の状況

(1) 卒業者数・就職者数・進学者数等

◆ 宝塚医療大学

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
理学療法学科	46	38	1	0	7
柔道整復学科	49	40	1	2	6
鍼灸学科	22	14	1	0	7
合 計	117	92	3	2	20

(令和5年5月1日現在、単位：名)

別科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
留学生別科(大阪豊崎キャンパス)	9	2	0	6	1
留学生別科(東京キャンパス)	14	5	0	7	2
介護福祉別科	25	25	0	0	0
合 計	48	32	0	13	3

◆ 平成医療学園専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復師科 昼間Ⅰ部	23	14	0	2	7
柔道整復師科 昼間Ⅱ部	14	10	0	0	4
鍼灸師科 昼間Ⅰ部	21	17	0	0	4
鍼灸師科 昼間Ⅱ部	23	17	0	0	6
東洋療法教員養成学科	3	3	0	0	0
日本語学科 日本語1年コース	1	0	1	0	0
日本語学科 医療福祉系1年コース	6	0	0	6	0
日本語学科 進学1.5年コース	0	0	0	0	0
日本語学科 進学2年コース	0	0	0	0	0
応用日本語学科 1年コース	13	0	0	13	0
応用日本語学科 2年コース	10	1	3	6	0
合 計	114	62	4	27	21

◆ 横浜医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復師科 昼間	35	26	2	1	6

柔道整復師科 夜間	18	11	1	2	4
鍼灸師科 昼間	33	24	1	3	5
鍼灸師科 夜間	11	5	5	0	1
日本語学科 進学1.5年コース	0	0	0	0	0
日本語学科 進学2年コース	0	0	0	0	0
合 計	97	66	9	6	16

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
歯科衛生士学科 昼間	68	29	0	0	39
歯科衛生士学科 夜間	38	29	0	0	9
合 計	106	58	0	0	48

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	27	21	0	0	6
理学療法学科	6	6	0	0	0
柔道整復学科 昼間	6	4	0	1	1
はり・きゅう学科 昼間	21	16	0	0	5
アスレティックトレーナー学科	15	6	0	8	1
合 計	75	53	0	9	13

◆ 日本総合医療専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復学科 柔整士 [®] ・ツ・ケアⅠコース	11	9	0	2	0
柔道整復学科 柔整士 [®] ・ツ・ケアⅡコース	8	8	0	0	0
合 計	19	17	0	2	0

◆ 和歌山看護専門学校（旧公益社団法人和歌山県病院協会和歌山看護専門学校）

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	34	34	0	0	0
合 計	34	34	0	0	0

◆ 福島医療専門学校（旧学校法人福寿会）

（令和5年5月1日現在、単位：名）

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔整科	45	32	0	7	6
鍼灸科	21	15	1	2	3
歯科衛生士科	58	55	0	0	3
日本語学科	0	0	0	0	0
合計	124	102	1	9	12

- 「就職者」とは、「正規の職員・従業員・自営業主等」又は「正規の職員ではない者のうち雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の者」をいう。
- 在学中既に職に就いている者で、卒業後も引き続きその職にある場合は「就職者」に含める。
- 「就職者数（関係分野）」とは、卒業者が当該大学・専門学校に在学した学科の専門分野と同等又は関連のある分野の職業に就いた場合をいう。
- 「就職者数（その他分野）」とは、上記「就職者数（関係分野）」以外で、当該大学・専門学校で履修した学科とは直接関係のない分野に就職した者をいう。

(2) 主な就職先

◆ 宝塚医療大学

（令和4年5月1日現在）

学科	主な就職先
理学療法学科	アシックストライアスサービス株式会社、尼崎新都心病院、医療法人医誠会児島中央病院、医療法人貴和会生野中央病院、医療法人交詢医会大阪リハビリテーション病院、医療法人整形外科なかむらクリニック、医療法人社団哺育会浅草病院、医療法人せいわ会彩都リハビリテーション病院、医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院、医療法人晴風園川西リハビリテーション病院、医療法人明倫会宮地病院-本山リハビリテーション病院、大阪府立病院機構、株式会社システム・エージ、金沢文庫病院、株式会社夢たまご、川口さくら病院、北大阪ほうせんか病院、神戸低侵襲がん医療センター、国立病院機構大阪医療センター、国立病院機構神戸医療センター、社会医療法人渡邊高記念会、社会福祉法人恩賜財団済生会泉尾病院、社会福祉連携推進法人日の出医療福祉グループ、白庭病院、新須磨リハビリテーション病院、素晴らしい株式会社HAREYAKA整骨院+Rebody、整形外科-リハビリテーション科大井クリニック、竹村整形外科、鶴見緑地病院、兵庫医科大学ささやま医療センター、マックスール巽病院、三木山陽病院、横浜労災病院、洛和会ヘルスケアシステム、洛和会ヘルスケアシステム、若狭高浜病院JCHO

<p>柔道整復学科</p>	<p>EMPOWERMENT平川接骨院-鍼灸治療院グループ、 FMG北斗整骨院、iCureテクノロジー株式会社、ZERO骨盤整体院、朝日医療専門学校広島校、医療法人永田整形外科、医療法人堺整形外科福岡スポーツクリニック、えさきクリニック、株式会社EXPAND、株式会HITOMIOテクノロジーズ、株式会社joyplus、株式会社LOLQ、株式会社SYNERGYJAPANふらす鍼灸整骨院、株式会社アーク神門鍼灸整骨院、株式会社昭真会まはろ整骨院、株式会社クラシオン、株式会社サンライズ、株式会社人生分の1、株式会社フューチャーシップ、株式会社ほねごり、株式会社わだちグループ、小谷整骨院・鍼灸院、こやまはりきゅう整骨院、すこやか接骨院、すずらん鍼灸整骨院、整骨院sapiens、センディングベース株式会社スマイルステーション、中田接骨院、なかのう鍼灸接骨院、山岡整骨院、履正社国際スポーツ専門学校、株式会社EXPAND</p>
<p>鍼灸学科</p>	<p>整体サロンCuore、EMPOWERMENT 平川接骨院、Beau骨盤鍼灸整骨院、iCureテクノロジー株式会社、健康堂、だいち鍼灸整骨院、株式会社アーク 神門鍼灸整骨院、株式会社HITOMIOテクノロジーズ RiCORE鍼灸整骨院、ハリマユナイテッド株式会社、Cento Cuore HARIMA、坂口鍼灸整骨院</p>

7 国家試験の受験状況

◆ 宝塚医療大学

(令和4年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
理学療法士国家試験	40	38	95.0%	94.9%
柔道整復師国家試験	42	36	85.7%	65.4%
はり師国家試験	20	14	70.0%	85.5%
きゅう師国家試験	20	14	70.0%	85.9%

◆ 平成医療学園専門学校

(令和4年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	36	18	50.0%	65.4%
はり師国家試験	44	42	95.5%	85.5%
きゅう師国家試験	44	42	95.5%	85.9%

◆ 横浜医療専門学校

(令和4年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	45	27	60.0%	65.4%
はり師国家試験	44	32	72.7%	85.5%
きゅう師国家試験	44	32	72.7%	85.9%

◆ なにわ歯科衛生専門学校

(令和4年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
歯科衛生士国家試験	105	92	87.6%	95.2%

◆ 名古屋平成看護医療専門学校

(令和4年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	26	18	69.2%	95.5%
理学療法士国家試験	6	5	83.3%	94.9%
柔道整復師国家試験	6	1	16.7%	65.4%
はり師国家試験	21	20	95.2%	85.5%
きゅう師国家試験	21	20	95.2%	85.9%

◆ 日本総合医療専門学校

(令和4年度新規卒業者)

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	19	13	68.4%	65.4%

◆ 和歌山看護専門学校（旧公益社団法人和歌山県病院協会和歌山看護専門学校）

（令和4年度新規卒業者）

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	34	33	97.1%	95.5%

◆ 福島医療専門学校（旧学校法人福寿会福島医療専門学校）

（令和4年度新規卒業者）

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	45	40	88.9%	65.4%
はり師国家試験	21	20	95.2%	85.5%
きゆう師国家試験	21	20	95.2%	85.9%
歯科衛生士国家試験	58	55	94.8%	95.2%

8 退学者数・除籍者数・留年者数・中退率

(1) 退学者数

◆ 宝塚医療大学

(令和4年度、単位：名)

学科	退学者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	5	6	4	0	15
柔道整復学科	2	10	3	3	18
鍼灸学科	1	3	1	0	5
保健医療学部	8	19	8	3	38
リハビリテーション学科	7	5	2	—	14
看護学科	0	—	—	—	0
和歌山保健医療学部	7	5	2	0	14
合計	15	24	10	6	52

(2) 除籍者数

◆ 宝塚医療大学

(令和4年度、単位：名)

学科	除籍者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	0	1	0	0	1
柔道整復学科	0	0	0	0	0
鍼灸学科	0	1	1	0	2
保健医療学部	0	2	1	0	3
リハビリテーション学科	0	0	0	—	0
看護学科	0	—	—	—	0
和歌山保健医療学部	0	0	0	0	0
合計	0	2	1	0	3

(3) 留年者数

◆ 宝塚医療大学

(令和4年度、単位：名)

学科	留年者数				
	1年	2年	3年	4年	計
理学療法学科	0	1	9	6	16
柔道整復学科	0	0	2	4	6
鍼灸学科	0	0	0	1	1
保健医療学部	0	1	11	11	23
リハビリテーション学科	5	5	4	—	14
看護学科	0	—	—	—	0
和歌山保健医療学部	5	5	4	0	14
合計	5	6	15	11	37

(4) 中退率

◆ 宝塚医療大学

(令和4年中の退学・除籍者数／令和4年5月1日現在の在籍者数)

学科	中退率			
	1年	2年	3年	4年
理学療法学科	6.9%	10.0%	6.5%	0.0%
柔道整復学科	3.4%	14.1%	4.9%	5.4%
鍼灸学科	2.6%	18.2%	7.1%	0.0%
保健医療学部	4.7%	12.9%	6.0%	2.3%
リハビリテーション学科	6.4%	5.2%	2.2%	—
看護学科	0.0%	—	—	—
和歌山保健医療学部	4.2%	5.2%	2.2%	—
合計	4.5%	10.0%	4.5%	2.3%

9 社会人学生数・留学生数・海外派遣学生数

(1) 社会人学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	社会人学生数
理学療法学科	0
柔道整復学科	0
鍼灸学科	1
口腔保健学科	0
保健医療学部 小計	1
リハビリテーション学科	4
看護学科	0
和歌山保健医療学部 小計	4
合計	5

(注) 「社会人」とは、職に就いている者、すなわち、給料、賃金、報酬その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者をいう。また、企業等を退職した者及び主婦等も含む。

(2) 留学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	留学生数
理学療法学科	1
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
口腔保健学科	0
保健医療学部 小計	1
リハビリテーション学科	0

看護学科	0
和歌山保健医療学部 小計	0
合 計	1

(3) 海外派遣学生数

◆ 宝塚医療大学

(令和4年度、単位：名)

学科	海外派遣学生数
理学療法学科	0
柔道整復学科	0
鍼灸学科	0
口腔保健学科	0
保健医療学部 小計	0
リハビリテーション学科	0
看護学科	0
和歌山保健医療学部 小計	0
合 計	0

Ⅲ．財務の概要

1 学校法人会計基準

◆ 学校法人とは

学校法人とは、私立学校の設置を目的として、私立学校法の定めるところにより設立される法人をいいます（私立学校法第3条）。学校法人は、学校法人会計基準で定めるところに従って会計処理を行い、計算書類を作成しなければならないとされています。

◆ 学校法人会計基準の特徴

学校法人は、一般の企業のように利益の追求を目的とするものではありません。学校法人は、教育研究活動を目的としていますが、収入と支出のバランスが取れなければ学校運営を維持することはできません。そのため、学校法人会計の目的は、設置運営する大学等の永続的維持、発展と教育研究活動の円滑な遂行です。同時に、経常費補助金に係る予算の適切な執行が求められます。

学校法人の収入の大半は、自由に増額することが困難な学生生徒等納付金です。また、教育研究活動の維持発展のための支出を削減することが難しい点があります。そこで、学校法人の経営状況及び財政状態を的確に把握するため、学校法人会計基準に基づき計算書類を作成する必要があります。

◆ 学校法人会計と企業会計の違い

企業が利益の追求を目的としているのに対し、学校法人は教育研究活動を目的としています。企業会計が計算書類からその経営成績を知ることが目的であるのに対し、学校法人会計は計算書類によって安定的、継続的に教育研究活動が行われているか否かを知ることが目的です。

学校法人の事業は、基本的に非営利事業です。そのため、収益事業を目的とした一般事業会社のように利益を得ることが目的とはなっていないことから、一定の制限の下に認められる収益事業を除き、企業会計における損益計算は適用されません。

2 各科目の説明

◆ 資金収支計算書の科目（収入の部）

科 目	説 明
学生生徒等納付金収入	教育研究活動の対価としての性質を有し、在学条件として義務的かつ一律に納付させる授業料、実験実習料や、学生生徒等を就学させるに当たって義務的かつ一律に納付させる入学金など。
手数料収入	特定の用役の提供に当たって受益者から徴収する手数料。入学検定料、試験料、証明手数料収入など。
寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、補助金収入とならないもの。
補助金収入	国又は地方公共団体から交付される助成金。日本私立学校振興・共済事業団やこれに準ずる団体からの助成金を含む。

資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却収入。不動産売却収入、有価証券売却収入など。
付随事業・収益事業収入	補助活動収入（食堂、売店、寄宿舍等教育活動に付随する活動に係る事業の収入）、附属事業収入（附属機関（病院、研究所等）の事業の収入）、受託事業収入（外部から委託を受けた試験、研究等による収入）、収益事業収入（収益事業会計からの収入）など。
受取利息・配当金収入	その他の受取利息・配当金収入（預金、貸付金等の利息、株式の配当金等）など。
雑収入	学生生徒等納付金収入から事業収入までの各収入に含まれない収入で、固定資産に含まれない物品の売却収入その他学校法人に帰属する収入。
借入金等収入	金融機関等から借り入れた資金。
前受金収入	翌会計年度以後の諸活動に対応する収入を当該会計年度において資金収入したもの。
その他の収入	学生生徒等納付金収入から前受金収入までの各収入科目に含まれない収入。積み立ててきた特定資産から繰り入れた収入や、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入など。
資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入のうち、資金の収入が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる収入項目に対応する勘定。
前年度繰越支払資金	前年度から繰り越した支払資金。

◆ 資金収支計算書の科目（支出の部）

科 目	説 明
人件費支出	教職員等に支給する人件費。教員人件費支出、職員人件費支出、役員報酬支出、退職金支出など。
教育研究経費支出	教育研究のために支出する経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
管理経費支出	教育研究経費以外の経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
借入金等利息支出	借入金及び学校債に係る利息支出。
借入金等返済支出	借入金及び学校債に係る返済支出。
施設関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する土地、建物、構築物、建設仮勘定等、固定して設置する固定資産に係る支出。
設備関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書、車輛等の設備又は電話加入権等の設備の利用に係る権利に係る支出。
資産運用支出	学校法人の資産運用目的による資金支出。
その他の支出	人件費支出から資産運用支出までの各科目に含まれない支出。当年度内に支払義務が確定しているが、年度末に未払いとなったもの（期末未払金）や、当年度に属する経費を前年度以前に前払いしたもの（前期末未払金）など。

資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対応する支出のうち、資金の支出が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる支出項目に対応する勘定。
次年度繰越支払資金	翌年度へ繰り越される支払資金。

◆ 事業活動収支計算書の科目

科 目	説 明
その他の教育活動外収入	収益事業収入、外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差益）など、教育研究活動以外の収入。
その他の教育活動外支出	外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差損）など、教育研究活動以外の支出。
その他の特別収入	施設設備寄付金、現物寄付、施設設備補助金、過年度修正額。
資産売却差額	学校が持つ不動産、有価証券等の資産を売却した際に生じる売却益。その他、有価証券の時価の著しい下落による有価証券評価損（有価証券評価差額）、有姿除却を行った場合の有姿除却等損失を含む。
その他の特別支出	災害損失、退職給付引当金特別繰入額、デリバティブ取引の解約損。
事業活動収入	学生生徒等納付金や補助金など学校法人の負債とならない収入。従来の「帰属収入」。企業会計の「収益」に当たる。
事業活動支出	年度内で消費する資産の取得価額（減価償却額など）と用役の対価として支出した額（人件費や経費支出など）。従来の「消費支出」。企業会計の「費用」に当たる。

3 財政運営

本学園の財政運営に当たっては、経営の安定を図るとともに、健全な学園運営を行うために、学生生徒等納付金、経常費補助金などの収入の確保と支出の削減を図り、経営の合理化・効率化に努めているところです。本学園の令和3年度の決算は、以下のようになりました。

◆ 事業活動収支計算書の予算対比について

教育活動収支の収入は94,949千円の増となり、内訳は、学生生徒等納付金47,105千円の減、手数料3,033千円の増、寄付金7,903千円の減、経常費等補助金24,047千円の増、付随事業収入96,596千円の増、雑収入26,281千円の増です。付随事業収入の増は、主に留学生の寮費収入増によるものです。

教育活動収支の支出は277,533千円の減となり、内訳は、人件費119,879千円の減、教育研究経費419,379千円の減、管理経費239,746千円の増、徴収不能額等21,979千円の増で、教育研究経費では報酬委託手数料の減少の他、学生寮に係る経費について管理経費の補助活動事業支出に科目振替したことも大きく影響しています。また、これが管理経費増加の最大の要因ともなっています。結果、収支はマイナスの予算から51,450千円のプラスとなりました。

教育活動外の収入は11,942千円の増で、主な要因は収益事業収入8,970千円の増です。教育活動外の支出は572千円の増となり、結果、収支は11,370千円マイナス幅が縮小しました。経常収支差額については、383,852千円増で25,730千円のプラスとなりました。

特別収支の収入は6,974千円の増となり、要因は現物寄付6,974千円の増です。特別収支の支出は18,498千円の増となり、要因はすべて資産処分差額の増で、結果、収支は11,524千円の減となりました。

基本金組入前当年度収支差額は372,328千円増の470,049千円となりました。

基本金組入額につきましては84,913千円となっています。

◆ 事業活動収支計算書の前年度対比について

教育活動収支の収入は987,260千円の増となり、内訳は、学生生徒等納付金805,727千円の増、手数料14,786千円の増、寄付金7,841千円の増、経常費等補助金915千円の減、付随事業収入116,849千円の増、雑収入42,972千円の増です。学生生徒等納付金の増で大きな要因は、留学生や宝塚医療大学和歌山保健医療学部の学納金などです。寄付金は一般寄付金7,908千円の増が主な要因です。経常費等補助金の内訳は国庫補助金が10,815千円の減、都道府県補助金が834千円の減、市町村補助金が4,060千円の増、その他補助金6,674千円の増となっています。付随事業収入116,849千円増は、補助活動収入115,243千円の増が大きく影響しています。雑収入42,972千円増は、施設設備利用料20,383千円とその他の雑収入24,023千円の増が主な要因です。

教育活動収支の支出は175,352千円の増となり、内訳は、人件費106,881千円の増、教育研究経費337,467千円の増、管理経費289,881千円の減、徴収不能額等は20,885千円の増で、人件費の内訳は、教員人件費79,496千円の増、職員人件費27,598千円の増、その他の人件費213千円の減です。教育研究経費は報酬委託手数料200,477千円の増や光熱水費55,718千円の増および奨学費34,336千円の増などが大きな要因です。管理経費では寄付金556,840千円減となる一方で補助活動事業支出が162,674千円、広報費29,114千円、賃借料22,791千円などが増加しています。結果、収支は811,908千円増で51,450千円のプラスとなりました。

教育活動外の収入は3,637千円の増はその他の受取利息・配当金3,017千円増が主な要因です。

教育活動外の支出は6,541千円の減で、主な要因は借入金利息6,413千円の減です。結果、収支は10,178千円マイナス幅が縮小しました。

経常収支差額については822,086千円増で25,730千円のプラスとなりました。

特別収支の収入は現物寄付3,046,709千円減の影響で2,975,123千円減となり、特別支出63,772千円減となり、結果、収支差額は2,911,351千円の減となりました。

基本金組入前当年度収支差額は2,089,265千円の減となりました。

基本金は、昨年度組入額対比3,328,181千円減で84,913千円の組入れとなりました。

4

資金収支計算書

(単位：千円)

科目		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,121,593	3,315,916	2,868,284	2,485,154	2,151,570
	手数料収入	61,613	46,827	36,059	40,470	30,532
	寄付金収入	7,916	8	65,291	9,264	51,416
	補助金収入	437,307	439,713	343,826	396,543	202,148
	資産売却収入	660,977	317,470	45,200	1,379	0
	付随事業・収益事業収入	217,120	99,651	92,388	107,121	100,999
	受取利息・配当金収入	7,502	4,485	5,221	5,004	3,406
	雑収入	117,373	75,099	38,112	71,241	39,676
	借入金等収入	600,000	500,000	2,312,400	2,119,700	932,500
	前受金収入	2,642,671	2,155,387	1,803,013	1,521,574	1,319,029
	その他の収入	2,072,474	1,688,308	1,310,069	605,021	901,545
	資金収入調整勘定	△ 2,362,195	△ 2,152,333	△ 1,612,604	△ 1,548,408	△ 1,243,881
	前年度繰越支払資金	2,596,897	2,720,753	1,904,029	2,384,031	2,856,354
	収入の部合計	11,181,248	9,211,284	9,211,288	8,198,094	7,345,294
支出の部	人件費支出	2,275,358	2,167,650	1,940,979	1,646,337	1,340,882
	教育研究経費支出	1,287,012	957,130	760,902	548,996	442,680
	管理経費支出	821,368	1,127,756	872,028	1,051,458	651,252
	借入金等利息支出	41,172	47,585	41,882	36,044	22,791
	借入金等返済支出	455,860	456,070	1,658,597	141,475	136,380
	施設関係支出	740,663	140,248	89,623	2,086,356	1,267,729
	設備関係支出	214,165	73,655	414,763	89,145	80,765
	資産運用支出	2,844	2,899	2,997	3,080	3,912
	その他の支出	1,931,816	1,856,661	844,268	1,155,240	1,334,022
	[予備費]	0	0	0	0	0
	資金支出調整勘定	△ 1,025,286	△ 215,267	△ 135,504	△ 464,066	△ 319,150
	翌年度繰越支払資金	4,436,276	2,596,897	2,720,753	1,904,029	2,384,031
支出の部合計	11,181,248	9,211,284	9,211,288	8,198,094	7,345,294	

5 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	4,121,643	3,315,916	2,868,284	2,485,154	2,151,570
		手数料	61,613	46,827	36,059	40,470	30,531
		寄付金	7,916	75	65,477	10,113	18,416
		経常費等補助金	437,307	438,222	343,626	196,543	202,148
		付随事業収入	208,150	91,301	84,010	97,310	90,923
		雑収入	117,290	74,318	51,912	69,741	39,676
		教育活動収入計	4,953,919	3,966,659	3,449,368	2,899,331	2,533,264
	支出の部	人件費	2,282,887	2,176,006	1,948,813	1,653,708	1,338,667
		教育研究経費	1,692,245	1,354,778	1,092,228	773,796	619,001
		管理経費	904,358	1,194,239	938,580	1,098,243	674,698
		徴収不能額等	22,979	2,094	7,552	6,090	87,323
教育活動支出計		4,902,469	4,727,117	3,987,173	3,531,837	2,719,689	
教育活動収支差額		51,450	△ 760,458	△ 537,805	△ 632,506	△ 186,425	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	7,502	4,485	5,221	5,004	3,406
		雑収入	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外収入	8,970	8,350	8,377	9,811	10,076
		教育活動外収入計	16,472	12,835	13,598	14,815	13,482
	支出の部	借入金等利息	41,172	47,585	41,882	36,044	22,791
		その他の教育活動外支出	1,020	1,148	1,336	1,295	0
		教育活動外支出計	42,192	48,733	43,218	37,339	22,791
教育活動外収支差額		△ 25,720	△ 35,898	△ 29,620	△ 22,524	△ 9,309	
経常収支差額		25,730	△ 796,356	△ 567,425	△ 655,030	△ 195,734	
特別収支	収入の部	資産売却差額	73,780	0	200	870	0
		その他の特別収入	389,057	3,437,960	800,150	2,567,581	36,390
		特別収入計	462,837	3,437,960	800,350	2,568,451	36,390
	支出の部	資産処分差額	18,498	80,296	7,497	326	2,439
		その他の特別支出	20	1,994	990	1040	990
特別収支差額		444,319	3,355,670	791,863	2,567,085	32,961	
[予備費]		0	0	0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額		470,049	2,559,314	224,438	1,912,055	△ 162,773	
基本金組入額合計		△ 84,913	△ 3,413,094	△ 1,329,078	△ 2,721,743	△ 477,428	
当年度収支差額		385,136	△ 853,780	△ 1,104,640	△ 809,688	△ 640,201	
前年度繰越収支差額		△ 3,226,704	△ 2,372,924	△ 1,268,284	△ 458,596	181,605	
基本金取崩額		0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 2,841,568	△ 3,226,704	△ 2,372,924	△ 1,268,284	△ 458,596	
(参考)							
事業活動収入計		5,433,228	7,417,454	4,263,316	5,482,597	2,583,136	
事業活動支出計		4,963,179	4,858,140	4,038,878	3,570,542	2,745,909	

6 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部					
科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
固定資産	16,328,737	16,111,012	13,320,726	12,720,311	8,193,765
有形固定資産	15,361,759	15,296,643	12,488,606	11,402,445	7,127,703
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	966,978	814,369	832,120	1,317,866	1,066,062
流動資産	4,710,427	3,044,624	2,834,002	2,299,573	2,581,271
資産の部合計	21,039,164	19,155,636	16,154,728	15,019,884	10,775,036
負債の部					
科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
固定負債	5,690,359	4,983,601	5,158,102	4,596,016	2,368,352
流動負債	3,559,946	2,853,224	2,237,130	1,888,810	1,783,682
負債の部合計	9,250,305	7,836,825	7,395,232	6,484,826	4,152,034
純資産の部					
科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
基本金	14,630,427	14,545,514	11,132,420	9,803,342	7,081,598
第1号基本金	14,273,427	14,273,157	10,860,063	9,599,469	6,915,356
第2号基本金	0	0	0	0	0
第3号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	357,000	272,357	272,357	203,873	166,242
繰越収支差額	△ 2,841,568	△ 3,226,703	△ 2,372,924	△ 1,268,284	△ 458,596
純資産の部合計	11,788,859	11,318,811	8,759,496	8,535,058	6,623,002
負債及び純資産の部合計	21,039,164	19,155,636	16,154,728	15,019,884	10,775,036

7 基本金

基本金の種類は、以下の4つに分類されています。

① 第1号基本金

学校法人が設立当初に取得した固定資産の価額又は新たな学校の設置や既設の学校の規模の拡大、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額

② 第2号基本金

将来の固定資産の取得に充てるために、事前に計画的・段階的に積み立てる金銭等の資産の額

③ 第3号基本金

奨学基金、研究基金等の基金として継続的に保持・運用する金銭等の資産の額

④ 第4号基本金

恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣が定める額

令和4年度（令和5年3月31日決算）は、第1号基本金が下記のとおり組み入れられました。

（△は基本金取崩高が組入高を超過している科目）

（単位：千円）

第1号基本金（今年度増減）	
土地	△ 473,464
建物	159,932
構築物	2,117
教育研究機器備品	43,754
管理用機器備品	3,283
図書	41,517
車両	△ 6,078
建設仮勘定	34,172
ソフトウェア	2,282
借入金返済に伴う組入高	156,938
未払金支払による組入高	35,817
合計	270
基本金	
前期繰越高	14,545,514
第1号基本金	14,273,157
第4号基本金	272,357
当期組入高	84,913
第1号基本金	270
第4号基本金	84,643
当期末残高	14,630,427
第1号基本金	14,273,427
第4号基本金	357,000

8 財産目録

(単位：千円)

科目	令和4年度末	
一 資産額		
(一) 基本財産	15,361,759	
1 土地		
(1) 宝塚医療大学 校地	48,715.00 m ²	452,000
(2) 平成医療学園専門学校 第一校舎校地	582.70 m ²	98,403
(3) 平成医療学園専門学校 第二校舎校地	663.19 m ²	228,219
(4) なにわ歯科衛生専門学校 校地	474.99 m ²	282,720
(5) 横浜医療専門学校 校地	910.18 m ²	526,920
(6) 法人本部倉庫	93.24 m ²	39,026
(7) 平成医療学園専門学校 校地用地	681.77 m ²	404,090
(8) 名古屋平成看護医療専門学校 校地	1,365.32 m ²	1,527,200
(9) 名古屋平成看護医療専門学校 駐車場用地	143.73 m ²	36,167
(10) 学校法人 平成医療学園	588.45 m ²	420,000
(11) 宝塚医療大学東京別科	510.96 m ²	682,103
(12) 日本総合医療専門学校	505.24 m ²	674,467
計	55,234.77 m ²	5,371,315
2 建物		
(1) 宝塚医療大学 校舎 設計費	4,759.97 m ²	686,163
(2) 宝塚医療大学 講義室棟	4,439.63 m ²	464,992
(3) 宝塚医療大学 屋内体育施設	1,504.44 m ²	164,428
(4) 宝塚医療大学 学生棟	1,305.58 m ²	165,631
(5) 宝塚医療大学 守衛室	8.41 m ²	3,564
(6) 宝塚医療大学 部室棟	238.48 m ²	33,753
(7) 平成保育園	-	30,626
(8) 宝塚附属保育園	-	95,619
(9) 看板	-	1
(10) 平成医療学園専門学校 第一校舎	1,709.51 m ²	213,377
(11) 平成医療学園専門学校 第二校舎	2,002.50 m ²	419,193
(12) なにわ歯科衛生専門学校 校舎	2,438.25 m ²	364,830
(13) 横浜医療専門学校 校舎	4,830.02 m ²	795,995
(14) 平成医療学園 事務所・共同住宅	1,395.20 m ²	248,130
(15) 豊崎倉庫	144.81 m ²	2,453
(16) 宝塚医療大学 豊崎校舎 改修工事	-	33,639
(17) 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 校舎	6,467.55 m ²	2,131,668

(18) 尼崎保健医療学部口腔保健学科設置準備室 事務所	5,225.84 m ²	104,674
(19) 名古屋平成看護医療専門学校 校舎	7,846.55 m ²	567,530
(20) 日本総合医療専門学校 校舎	2,899.98 m ²	613,795
(21) 和歌山看護専門学校 校舎	3,339.96 m ²	330,555
(22) 野田クリニック 7階	-	7,566
(23) 宝塚医療大学東京別科 校舎	4,422.39 m ²	936,020
(24) 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部看護学科研究棟	489.70 m ²	121,685
(25) 宝塚医療大学 観光学部	3,989.35 m ²	325,283
(26) 学校法人平成医療学園	1,992.11 m ²	172,500
計	61,450.23 m²	9,033,670
3 構築物		157,493
4 図書	-	311,112
5 教育研究用機器備品・管理用機器備品	-	393,243
6 車輛		23,524
7 建設仮勘定		71,402
(二) 運用財産		5,677,405
1 預金・現金		4,436,276
(1) 現金		8,659
(2) 普通預金		3,732,578
(3) 定期預金		695,039
2 有価証券(流動)		0
3 短期貸付金・立替金・預け金		9,227
4 不動産		0
5 貯蔵品		11,748
6 未収金		192,884
7 前払金		60,293
8 ソフトウェア		5,607
9 保証金・敷金		203,556
10 有価証券		151,766
11 収益事業元入金 (=収益事業用財産)		377,053
12 長期貸付金		194,750
13 保険積立金		34,108
14 出資金		86
15 預託金		51
計		21,039,164

二 負債額		
1 固定負債		5,690,358
(1) 長期借入金		4,736,828
(2) 退職給与引当金		119,290
(3) 長期未払金		833,290
(4) 長期預り金		950
2 流動負債		3,559,946
(1) 短期借入金		503,397
(2) 前受金		2,642,811
(3) 未払金		316,964
(4) 預り金		96,774
合計		9,250,304
三 借用財産		
1 土地	36,501.38 m ²	年額賃料 35,974
2 建物	1,827.03 m ²	年額賃料 38,780
合計		38,328.41 m²
収益事業用財産		
1 (1)事業用敷地 大阪市福島区吉野1-9-18	147.12 m ²	88,272
大阪市北区中津3-34-1	347.38 m ²	170,000
大阪市北区中津3-31-11	98.50 m ²	41,184
(小計)	593.00 m ²	299,456
(2)事業用建物	882.03 m ²	85,887
(3)事業用構築物		5,242
2 預金		100
3 前払金		0
資産の部合計		390,685
4 (1)未払金		14
(2)未払法人税		1,300
(3)未払消費税		596
(4)前受金		1,821
(5)預り保証金		9,582
負債の部合計		13,313
5 収益事業用資産		377,053
6 利益剰余金		319
純資産の部合計		377,372

9 主な財務比率

比率名	算式 (×100)	評価	比率
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	45.9%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	低い方が良い	55.4%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	34.0%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	18.2%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	低い方が良い	0.8%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	8.7%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	低い方が良い	92.8%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	どちらとも いえない	82.9%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	7.3%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	0.2%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	8.0%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	8.8%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	高い方が良い	1.6%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	どちらとも いえない	9.9%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	高い方が良い	0.5%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	高い方が良い	1.0%

(注1) 「経常収入」 = 「教育活動収入計」 + 「教育活動外収入計」

(注2) 「経常支出」 = 「教育活動支出計」 + 「教育活動外支出計」

(注3) 「経常収支差額」 = 「経常収入」 - 「経常支出」

(注4) 寄付金比率の「寄付金」には特別収支の「施設設備寄付金」及び「現物寄付」を含む。

(注5) 補助金比率の「補助金」には特別収支の「施設設備補助金」を含む。